



〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL : 03-5216-8401 FAX : 03-5216-8520 E-mail : eces-manager@ecesj.com HP : <https://www.ecesj.com/>

〔発行者〕 応用生態工学会 (編集責任者 : 幹事長 藤田乾一, 事務局長 青江 淳)

1	はじめに.....	1
2	応用生態工学会第 21 回総会案内.....	2
3	応用生態工学会第 21 回大会／ELR2017 名古屋 案内.....	3
4	次期役員募集・推薦委員会報告.....	39
5	2017 年度海外学会等への派遣者の選考結果報告.....	40
6	地域研究会「応用生態工学会岡山」が設立されました.....	40
7	行事開催案内	
7.1	応用生態工学会大阪 第 3 回ミュージアム連携ワークショップ in 岸和田 開催案内.....	40
8	理事会・幹事会報告	
8.1	第 87 回理事会報告.....	43
9	2017 年度行事の予定.....	44
10	事務局より.....	45

1 はじめに

今号では、学会第 21 回総会案内、学会第 21 回大会／ELR2017 名古屋の案内、次期役員募集・推薦委員会報告、2017 年度海外学会等への派遣者の選考結果報告、応用生態工学会岡山の設立報告、各地の活動状況など、学会の動きをお伝えします。

第 21 回総会案内を掲載しました

会員の皆様には、メールまたはハガキで「応用生態工学会第 21 回総会案内」を近々送信・送付します。返信期限（9 月 8 日（金））までに、出欠と、欠席される会員の皆様は委任状を必ず返信いただきますようお願いいたします。総会の成立には正会員の 1 / 5 以上の出席または委任状が必要です。

応用生態工学会第 21 回大会／ELR2017 名古屋の案内をお届けします

今年の応用生態工学会第 21 回大会は、日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会の 3 学会合同大会（ELR2017 名古屋）として 9 月 22～25 日に名古屋大学東山キャンパスにおいて開催します。3 学会合同大会として、3 回目の開催となります。

大会のテーマはグリーンインフラストラクチャーです。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

なお、早期参加申込みと参加費振込の締切りは 8 月 31 日（木）です。大会運営をスムーズに行うため、早期申込みと振込にご協力をお願いします。

次期役員募集・推薦委員会報告を掲載しました

本年 9 月 24 日に開催される第 21 回総会では次期役員の選出が行われますが、その候補者（会長候補、副会長候補、理事候補、監事候補）が決まりました。

地域研究会「応用生態工学会岡山」が設立されました

岡山地域においては、2012 年から地域研究会の設立準備が進められてきました。本年 6 月 29 日に開催された第 87 回理事会において、15 番目の地域研究会となる「応用生態工学会岡山」の設置が承認されました。

2 応用生態工学会第 21 回総会案内

応用生態工学会第 21 回総会を下記のとおり開催いたします。会員の皆様のご出席をお願いします。

第 21 回総会は、応用生態工学会第 21 回大会／ELR2017 名古屋の 3 日目に開催します。

日 時：平成 29 年 9 月 24 日（日） 13：00～13：50

場 所：名古屋大学東山キャンパス 環境総合館 1 階 レクチャーホール

<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/access/index.html>

なお、総会の成立には正会員の 1 / 5 以上の出席または委任状が必要です。総会に欠席される正会員の方は、別途、学会事務局より送信・送付する委任状（電子メールまたはハガキ）に必要事項を記入のうえ、9 月 8 日（金）までに事務局までご返信くださいますよう、お願いいたします。

総会資料は、9 月初めにホームページに掲載する予定ですので、ご確認ください。

3 応用生態工学会第21回大会／ELR2017名古屋 案内

ELR2017 名古屋・ICLEE8 のご案内

開催期間：2017 年 9 月 22 日（金）～25 日（月）

会 場：名古屋大学（名古屋市千種区不老町）

主 催：日本緑化工学会，日本景観生態学会，応用生態工学会

共 催：名古屋大学大学院環境学研究科，LEE 国際コンソーシアム

本年の応用生態工学会第21回大会は，日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会の3学会合同大会（ELR2017名古屋）として開催します。

この3学会は，ともに生態分野の応用的研究を行う学術団体であり，研究者間の交流，研究成果の公表体制の強化などをねらいとして，英文誌LEE（Landscape and Ecological Engineering）の発行など協力的活動を行ってまいりました．2008年，2012年には，さらなる試みとして，3学会の大会を合同で開催するに至りました．今回は，その3学会合同大会の3回目の開催となります。

今回のテーマは，グリーンインフラストラクチャーです．地球規模での環境や資源をめぐる問題，これまでにない災害の甚大化などへの対応には，自然の仕組みを活かした国土や地域の管理が必要だと考えられています．人類による生態系への影響がますます強くなる時代に，生態系さらには社会の持続性はランドスケープをどう維持管理するかということに大きくかかわります．公開シンポジウム並びに国際シンポジウムでこの課題に取り組むとともに，会員の皆さんからの研究発表や革新的な議論を期待しています。

なお，韓国，台湾の学会との国際コンソーシアムICLEE（International Consortium of Landscape and Ecological Engineering，英文誌LEEの刊行母体）の第8回大会を同時開催します。

《 大 会 日 程 》

9月22日（金）

・応用生態工学会各委員会	11：00～14：00	環境総合館
・応用生態工学会幹事会	13：00～13：45	環境総合館演習室3
・応用生態工学会理事会	13：45～14：30	環境総合館演習室3
・研究集会 A1，A2，A3，A4	15：00～17：00	環境総合館・ES 総合館
・研究集会 B1，B2，B3，B4	17：15～19：15	環境総合館・ES 総合館

9月23日（土）

・口頭発表	09：00～11：15	環境総合館・ES 総合館
・ポスター発表	09：00～18：00	ES 総合館・減災館
（コアタイムその1／11：45～12：30，コアタイムその2／12：30～13：15）		
・研究集会 C1，C2，C3，C4，C5，C6	13：30～15：30	環境総合館・ES 総合館
・ICLEE 8th Conference 口頭発表	09：00～11：30	環境総合館
・技術・製品紹介	09：00～17：00	環境総合館エントランス
・国際シンポジウム「Landscape and Green Infrastructure, a key to sustainability」	15：45～17：45	坂田・平田ホール
・懇親会	18：00～20：00	南部食堂

9月24日（日）

・口頭発表	09：00～11：45	環境総合館・ES 総合館
・ポスター発表	09：00～12：00	ES 総合館・減災館

- | | | |
|--|-------------|---------------|
| ・技術・製品紹介 | 09:00～13:00 | 環境総合館エントランス |
| ・応用生態工学会第 21 回総会 | 13:00～13:50 | 環境総合館レクチャーホール |
| ・応用生態工学会理事会・幹事会(合同会議) | 13:50～14:15 | 環境総合館レクチャーホール |
| ・公開シンポジウム「自然の仕組みを暮らしに賢く活かす―グリーンインフラへの招待」 | 14:30～17:00 | 豊田講堂 |

9 月 25 日 (月)

- | | |
|-----------|-------------|
| ・エクスカッション | 08:00～17:30 |
|-----------|-------------|

《 参加 / 発表される皆様へ 》

《受付》

- ・9 月 22 日 (金) は、14:00 から参加の受付を開始します。
- ・9 月 23 日 (土) は、8:30 から参加の受付を開始します。23 日 (土) の受付は非常に混雑することが予想されます。早めに受付をお済ませください。
- ・早期申込み者には名札・領収証・要旨集引換券を郵送しますので、必ずご持参ください。引き換えは環境総合館エントランスの予定ですが、ES 総合館での引き換えも検討中です。
- ・当日受付は環境総合館エントランスで行います。名札をお渡ししますので、会場では必ず名札を付けてください。
- ・大会参加費は、3 学会の正会員・賛助会員 5,000 円 (当日参加 6,000 円)、学生 (会員・非会員同額) 2,000 円、一般 (非会員) 8,000 円です。大会参加費には講演要旨集の料金が含まれています。懇親会参加費は一般 (正会員、賛助会員、非会員同額) 5,000 円、学生 (会員、非会員同額) 3,000 円です。
大会運営をスムーズに行うため、早期参加申込みと参加費振込にご協力ください。早期申込みと振込の締切りは 8 月 31 日 (木) です。
- ・公開シンポジウムおよび国際シンポジウムのみに参加される方は無料です。
- ・日本緑化工学会の講演要旨集 (ELR2017 名古屋の講演要旨集とは異なります。) を受付にて販売します。また、ELR2017 名古屋の講演要旨集だけの販売も行います。

《クローク》

- ・クロークは環境総合館第 1 会議室 (受付は環境総合館エントランス) です。
9 月 22 日 (金) 14:00～18:00、23 日 (土) 8:30～18:00、24 日 (日) 8:30～18:00 です。
懇親会は少し離れた別会場ですので、23 日 (土) は懇親会開始前にお引取りください。

《発表される方、全員に》

- ・ELR2017 名古屋では、3 学会の学術交流がスムーズに行えるよう、発表課題について、口頭発表、ポスター発表ともに、いくつかのセッションに分けました。
- ・ご自身の発表されるセッションについては、応用生態工学会ニュースレター No. 77、応用生態工学会ホームページまたは大会ホームページにてご確認ください。

《口頭発表される方へ》

- ・口頭発表は、会場備え付けの設備を使用した発表とします。
- ・発表時間は発表 12 分、質疑応答 3 分の合計 15 分です。1 鈴:10 分、2 鈴:12 分、3 鈴:14 分 30 秒です。時間厳守にご協力ください。
- ・発表には、Windows・パワーポイントファイルをご使用ください。

- ・発表用パソコンには、Windows・パワーポイント 2010 がインストールされたパソコンを準備しています。発表にあたってはこれを使用し、操作は発表者各自が行ってください。
- ・発表用のファイルを USB メモリに入れてご持参ください。ファイル名には、各人の講演番号「例：23-1」をご使用ください。
- ・各セッション開始前に発表会場（22 日（金）は環境総合館エントランス）のパソコンに、ファイルを各自インストールし、動作確認をしてください。インストールの時刻は以下のとおりです。

9 月 23 日（土）発表の方：22 日（金）14：00～18：00 または 23 日（土）8：30～8：45
9 月 24 日（日）発表の方：23 日（土）11：30～12：00 または 24 日（日）8：30～8：45

《ポスター発表される方へ》

- ・ポスターは、その最大のサイズを横 850 mm、縦 1,200 mm とします。この最大サイズは、A0 サイズより若干大きめのサイズです。
- ・ポスターの上部に演題・発表者・所属を書いてください。発表者が複数の場合は、代表発表者の名前の前に○印を付けてください。
- ・展示方法はマジックテープ止めとなります。展示用のマジックテープは、ポスター会場で各自受け取ってください。
- ・ポスターの展示については、9 月 23 日（土）8：45 から展示可能です。遅くとも 11：45 までに展示を終了してください。ポスターの事前送付は、事故防止のため一切受け付けません。22 日（金）17：00～19：00 にも掲示できる予定ですが、大会ホームページでご確認ください。
- ・展示場所は、会場のポスターブースに講演番号「例：ESE-1」を掲示しますので、それに従って展示してください。
- ・コアタイム（23 日（土）11：45～12：30／奇数番号のポスター、12：30～13：15／偶数番号のポスター）が設定されていますので、その時間帯には必ずポスターの前で説明をお願いいたします。
- ・24 日（日）14：00 までに、各自でポスターを撤去してください。会場ではごみを廃棄できませんのでお持ち帰りください。
- ・分野ごとに審査され、ポスター賞が選定されます。研究の内容、ポスターのデザイン、プレゼンテーションのわかりやすさなどでポスター賞を選定いたします。ポスター賞に選定された方は、23 日（土）の懇親会で表彰いたします。

《応用生態工学会第 21 回総会》

- ・応用生態工学会第 21 回総会は、9 月 24 日（日）13：00～13：50 に環境総合館レクチャーホールにおいて開催します。
- ・他学会の総会については、日本緑化工学会は同日 12：30～14：15 に環境総合館講義室 2 にて、日本景観生態学会は同日 13：00～14：15 に環境総合館講義室 1 にて、それぞれ開催されます。

《懇親会》

- ・日時：9 月 23 日（土）18：00～
- ・会場：南部食堂
- ・懇親会中にポスター賞の表彰を行います。

《技術・製品紹介 / 書籍販売》

- ・23 日（土）および 24 日（日）は、環境総合館エントランスにおいて技術・製品紹介と書籍販売を行います。発表の合間にご覧ください。

○出展者：株式会社生物技研

内容：環境 DNA 解析を含む次世代シーケンサーの委託解析

○出展者：応用地質株式会社

内容：①地中レーダによる樹木診断システム（パネル及び実物の展示）

②保育ブロック苗を用いた緑化工法（パネル及び実物の展示）

○出展者：太陽計器株式会社

内容：Campbell 社製データロガー CR1000-4M をはじめとするデータロガーおよび各種計測機器の紹介

○出展者：エスペックミック株式会社

内容：在来種や地域性植物を用いた、緑化に関わる商品やソリューションの紹介

○出展者：グリーンフロント研究所株式会社

内容：パネル、モニターによるスマホ、小型ドローンを利用した市民調査取り組み事業の紹介

○出展者：株式会社山と溪谷社

内容：サイト「図鑑.jp」の宣伝、デモ、書籍販売も予定。

○出展者：株式会社地域環境計画

内容：自動撮影カメラと獣害対策用品の実物展示

○出展者：日本環境計測株式会社

内容：植物、気象関連の観測装置

- ・上記の技術・製品紹介に加え、書籍販売を行います。

●書籍販売

有限会社さくま書店

《国際シンポジウム》「Landscape and Green Infrastructure, a key to sustainability」

海外の研究者をお招きして、国際シンポジウムを開催します。

テーマ：Landscape and Green Infrastructure, a key to sustainability

- ・日時：2017 年 9 月 23 日（土）15：45～17：45
- ・会場：名古屋大学坂田・平田ホール
- ・申込：不要
- ・この国際シンポジウムには会員外の一般の方も参加できます（無料）。

1. Green infrastructure and ecosystem services in urban landscapes

都市におけるグリーンインフラと生態系サービス

Jack AHERN Professor of University of Massachusetts, USA

ジャック・アハーン（マサチューセッツ大学 教授）

2. Functional landscapes in cities

都市におけるランドスケープの機能

Erik ANDERSSON Associate Professor of Stockholm Resilience Centre, Sweden

エリック・アンダーソン（ストックホルム・レジリエンスセンター 准教授）

3. Ecology of Urban Environment

都市の生態学

Kirsten PARRIS Associate Professor of The University of Melbourne

クリステン・パリス（メルボルン大学 准教授）

《公開シンポジウム》「自然の仕組みを暮らしに賢く活かすグリーンインフラへの招待」

気候変動にともなう大雨や洪水、高潮の増加、東海・東南海・南海地震やそれによって引き起こされる津波、さまざまな自然災害が危惧される中での高齢化社会、地方の人口の急激な減少による地域社会の存続の危機、直面する大きな課題に、新しい考え方で立ち向かっていくことが必要だ。

「グリーンインフラ」は、生態系を社会基盤（インフラ）の一つとして明確に位置づけ、それが持つ多様な機能を発揮させることで、防災や地域づくりを行っていかうとする新しい考え方だ。EU や米国では、様々な空間スケール、地域でグリーンインフラのあり方が検討され、指針が設けられ、そして社会の中で活用されている。日本でも、「国土形成計画」、「国土利用計画」、「気候変動の影響への適応計画」等の中で、グリーンインフラを活用した国土管理のあり方を模索していくことが示された。

日本景観生態学会、日本緑化工学会、応用生態工学会は、持続可能な社会を構築するために、生態系の保全・活用手法を提案してきている学会である。これら3学会が連携し、グリーンインフラに関する国内の動向と、それぞれの学会内で取り組まれているグリーンインフラ研究・実践の最前線を紹介する。そして、これからの賢明な国土管理のあり方を提案する。

- ・日時：9月24日（日）14：30～17：00
- ・会場：名古屋大学豊田講堂
- ・申込：不要
- ・この公開シンポジウムには会員外の一般の方も参加できます（無料）。
- ・案内チラシ

https://www.ecesj.com/contents/event/conference/21th/ELR2017_OpenSymposium.pdf

1. 挨拶

【ELR2017 実行委員長/日本景観生態学会長】夏原由博 /名古屋大学大学院 環境学研究科 教授

2. なぜ身近な自然は失われるのか？－自然再生の新たな方法論を構築する

【応用生態工学会】三橋弘宗 /兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員

3. 生態系・風土を活かすランドスケープデザインと地域づくり

【日本景観生態学会】伊東啓太郎 /九州工業大学大学院 工学研究院 教授

4. 都市の中のグリーンインフラ

【日本緑化工学会】木田幸男 /東邦レオ株式会社 専務取締役

5. グリーンインフラ推進に向けた官民連携

【グリーンインフラ研究会】西田貴明 /三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 新事業開発室 副主任研究員

6. 総合討論

進行：鎌田磨人 /日本景観生態学会 /徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 教授

《研究集会》

3学会（日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会）に所属する会員により、14の研究集会が企画されています。集会には所属学会によらず参加でき、事前申込は不要です。

● ダムによる流況の変化と分断化：生態系の再生を目指して

A 1

・企画：応用生態工学会 石山信雄

・日時：9月22日（金）15:00～17:00 会場：レクチャーホール

- ・内容：企画者：石山信雄*1, 末吉正尚*2, 森 照貴*2 *1：北海道大学, *2：土木研究所・自然共生研究センター コメンテーター：白川直樹（筑波大学）, 三宅 洋（愛媛大学）

これまで、ダムは人間生活の安全性や豊かさの向上に大きな役割を果たしてきた。その一方で懸念されてきたのが、河川環境の質の低下である。河川法改正から 20 年が経過し、流域環境の保全の重要性が広く認識されるようになった今、今後はますます「人間生活と生態系保全の調和を目指したダム管理」が必要不可欠となってくるだろう。また、今後のわが国の課題として忘れてはならないのが、「人口減少」と「社会資本の老朽化」である。日本社会がこれまでとは異なるフェーズへ移行していく中で、どのようなダム管理が考えられるだろうか？ 本集会ではまず、全国スケールで蓄積されてきた河川環境の基盤データを活用し、ダムの河川生態系へのインパクトについて整理を行う。さらに後半では、自然再生に焦点を当て、ダムを対象とした河川再生の先進的な事例や、今後必要性が予想される管理上の視点について紹介する。

趣旨説明 石山信雄

1. インパクト評価

- ・全国のダムの分布及び分断化された河川長と魚類の関係 末吉正尚
- ・流量変動の地理的変異と治水ダムによる改変 森 照貴

2. 生態系再生

- ・お伝えしたい 2 つの事例ー付着藻類剥離に効果的なタイミングは？ 流況回復すると魚類は増える？ー 応用地質株式会社 浅見和弘・高木哲也
- ・連結性と流況の回復に着目したダム撤去影響評価手法の提示 石山信雄

3. コメンテーターの方々から

● 海岸砂丘生態系の保全・再生・利用～グリーンインフラストラクチャーとして～ A 2

- ・企画：日本景観生態学会 中田康隆
- ・日時：9 月 22 日（金） 15:00～17:00 会場：講義室 1
- ・内容：我が国で海岸砂丘植物の生態学的研究が始まり 100 年が経過した。多くの生態学者がこの特異的な環境に生育する海岸砂丘植物の研究を行ってきた。また、現在までに沿岸部の環境は劇的に改変されてきた。それに伴い、海岸砂丘植生・生態系の保全や再生に係る研究が行われるようになった。さらに東日本大震災の復旧・復興工事の進展に伴って海岸砂丘生態系の保全と再生が大きな課題として浮かび上がってきている。当地域に限らず、海岸砂丘は我が国でもっとも危機に瀕した生態系であり、その保全と再生は急務である。本研究集会では日本の海岸砂丘生態系及び植生の現状と課題をこれまでの研究をもとに総括し、生物多様性保全、防災・減災、レクリエーション利用など多様な機能をもつ海岸砂丘をグリーンインフラストラクチャーの 1 つとしてとらえた上で、その保全・再生・利用のあり方を検討する。

● 第 6 回河川砂防技術基準（調査編）をもとにした意見交換会（傍聴可） A 3

- ・企画：応用生態工学会 中村敏一
- ・日時：9 月 22 日（金） 15:00～17:00 会場：講義室 2
- ・内容：国土交通省が定める河川砂防技術基準（調査編）の環境分野の記載が最新の学術的・技術的水準および現場実務での活用実態・実績を踏まえたうえで、必要かつ十分なレベルで適宜改定されるよう、国土技術政策総合研究所と土木学会水工学委員会環境水理部会、応用生態工学会は平成 26 年 9 月より定期的に意見交換会を開催しています。このたび、第 6 回河川砂防技術基準（調査編）をもとにした意見交換会を実施するものです。

意見交換会メンバー

国土技術政策総合研究所：植田 彰水環境研究官、福島雅紀主任研究官
土木研究所：萱場祐一上席研究員

土木学会水工学委員会環境水理部会：島根大学 矢島啓教授，九州大学 矢野真一郎教授，山口大学 赤松良久准教授，玉野総合コンサルタント(株) 大橋信之
 応用生態工学会：徳島大学 河口洋一准教授，名古屋大学 田代 喬准教授，東邦大学 西廣 淳准教授，国際航業(株) 中村敏一

※傍聴について：傍聴希望者は傍聴可能です。ただし，傍聴者のご発言はできません。

● 日本緑化工学会 生物多様性緑化研究部会 研究集会「ポテンシャルに対応した多摩川河川敷の目標とする自然の変化と合意形成の可能性」 A 4

- ・企画：日本緑化工学会・応用生態工学会・日本景観生態学会 倉本 宣
- ・日時：9 月 22 日（金） 15:00～17:00 会場：ES ホール
- ・内容：これまでの研究成果が応用されて礫河原再生事業が進められています。しかし，樹林や草原になった河原を礫河原に戻すことには反対もあります。さらに，現在の礫の供給との関係で，どれだけの礫河原が維持できるのか，その配置をどのようにしたらよいかには知見がありません。そこで，砂防学，土木工学，保全生態学，陸水学，環境教育学，緑化学の研究者が共同して取り組むことにしました。その，問題意識とスタートに近い時点での成果を共有すべくシンポジウムを企画いたしました。

プログラム：

倉本 宣（明治大学） 礫河原の潜在的規模と配置研究の意義と課題
 奥田晃久（国土交通省河川環境課） 礫河原に対する考え方と課題
 五味高志（東京農工大学） 礫供給は減少しているのか
 知花武佳（東京大学） 礫河原はどこまでコントロールできるのか
 岡田久子（明治大学） 礫河原とワンドの空間的分布
 金子弥生（東京農工大学） 礫河原のアンチテーゼとしての樹林地・草地
 伊東静一（明治大学） 河川敷の自然についての合意形成は可能か
 ディスカッション

● 河川汽水域における自然再生～河川法改正 20 年 汽水域の川づくりを振り返る～ B 1

- ・企画：応用生態工学会・日本景観生態学会 乾 隆帝
- ・日時：9 月 22 日（金） 17:15～19:15 会場：レクチャーホール
- ・内容：河川汽水域は，特有の生物が生息し，貴重種も多い特殊な生態系である。しかしながら，人為的環境変化が生態系や生物多様性に負のインパクトを与え続けているため，それらの軽減ならびに自然再生が緊急の課題である。一方，河川汽水域における自然再生は事例自体が少ないため，有効な技術的手法が体系化されていないのが現状である。本集会では，河川汽水域における自然再生の事例として，徳島県那賀川河口部における地震・津波対策に伴う堤防かさ上げ工事の代償としての干潟が創出された経緯（阿南高専 大田直友）および代償干潟におけるハゼ類・カニ類相の変遷（九州大学 小山彰彦），宮崎県北川の人工ワンドや，福岡県遠賀川の多自然魚道，熊本県球磨川のヨシ原造成等の九州における複数の自然再生事例（九州大学 鬼倉徳雄）を紹介する。さらに，河川管理者視点から（中部地整 日高初淑）と，研究者視点から（徳島大学 河口洋一）のコメントを加え，今後の河川汽水域における環境保全ならびに自然再生のあり方について議論していきたい。

● ロボット・UAV・ネットワークカメラを用いた湿地生態系の監視と管理 B 2

- ・企画：応用生態工学会 山田浩之
- ・日時：9 月 22 日（金） 17:15～19:15 会場：講義室 1
- ・内容：日本は人口減少時代に突入し，従来，技術者や研究者，管理者が実施してきた生態系の監視や管理の分野でも労働力不足が懸念されるようになった。そうした労働力不足を補うものと

して、ロボットや UAV (ドローン) , AI (人工知能) , 画像解析, 通信技術などの最新技術の利活用に期待が寄せられているが、機器の導入・維持コスト, 扱い難さ, 野生生物への影響など克服すべき様々な課題がある。その問題を克服するために、平成 28 年度より環境研究総合推進費 (課題名: フィールド調査とロボット・センサ・通信技術をシームレスに連結する水域生態系モニタリングシステムの開発) を受けて、生態系の効率的な管理や監視の実現を目的として最新技術を用いた管理法, 監視法の開発を進めている。この集会では、①ロボットボートによる過度に増加した水生植物の除伐, ②UAV・カメラを用いた水鳥の監視とディープラーニングや画像処理を用いた生物検出とカウント, ③UAV 接近による水鳥への影響評価, ④ネットワークカメラを用いた水鳥の遠隔監視等の技術開発に関する話題提供を行い、生態系保全や管理の現場での最新技術の利活用, その実現可能性について、現場調査者や管理者の方々と意見交換を行いたい。

プログラム

司会: 山田浩之 (北大院・農)

趣旨説明: 海津 裕 (東大院・農)

話題提供

1 湖沼の植生管理用ロボットボートの開発

○遊佐 健・海津 裕・芋生憲司 (東大院・農)

2 水鳥モニタリングにおけるドローンの利用可能性

○鈴木透・松田亜希子・小川健太 (酪農学園大・環境共生)

3 ドローンの接近に対するガンカモ類の反応

○高橋佑亮・嶋田哲郎 (伊豆沼財団)・神山和夫 (バードリサーチ)・牛山克巳 (宮島沼水鳥・湿地センター)

4 遠隔監視システムと画像処理を用いたマガン飛来数の推定

○山田浩之・横山 諒 (北大院・農)・九間啓士朗 (東大院・農)

総合討論

● 斜面緑化におけるシカ被害の現状と課題 (生物多様性保全に配慮した緑化事例勉強会第 6 回)

B 3

・企画: 日本緑化工学会 山田 守

・日時: 9 月 22 日 (金) 17:15~19:15 会場: 講義室 2

・内容: シカ生息域において実施された斜面緑化施工地のシカ採食被害が増加している。採食被害は、緑化植物の採食に伴う植生の衰退・裸地化だけでなく、踏み荒らしによる侵食の発生、侵食に伴う排水路の閉塞、地質によっては落石の発生など、斜面保護機能自体にも大きな影響を与える。斜面緑化施工地におけるシカの採食被害について、

①斜面緑化におけるシカ被害の現状と課題 (SPTEC・YAMADA 山田 守)

②斜面におけるシカ被害対策工の種類や特徴 (日本植生株式会社 中村 剛)

③シカの嗜好性植物を用いた斜面緑化対策 (紅大貿易株式会社 吉原敬嗣)

の 3 つの話題提供をもとに議論を行う。

● 河川・ダムに関するデータベースの活用と課題

B 4

・企画: 応用生態工学会 中村太士・一柳英隆

・日時: 9 月 22 日 (金) 17:15~19:15 会場: ES ホール

・内容: 日本の河川・ダムでは、管理者が流量や水位, 水温・水質, 生物相 (河川水辺の国勢調査) などのデータを継続的に取得している。データを集約・整理することで、個人の取得のみでは成し得ない大規模・長期の解析が可能になる。データは WEB 上から取得できるものもある一方、まとまった形になっていないものや公開されていないものも多い。また、環境 DNA など新たに

開発された手法の大規模なデータ蓄積に対する期待も大きい。この研究集会では、河川やダムを対象に、全国的なマクロ解析に利用可能な情報のデータベース化の実態や課題について、データ取得者である管理者を交えて議論したい。

話題提供（仮題）：河川・ダムのデータベースの実態（鈴木 透・酪農大）、流木のデータベース構築と活用（徐 正一・韓国）、河川水辺の国勢調査の活用と提案（森 照貴・共生センター）、環境 DNA の河川生物情報への貢献（源 利文・神戸大学）

コメント（国土交通省・予定）

議論（コーディネータ・中村太士）

● 人為改変された生態系のレジリエンス～生き物の回復力～

C 1

・企画：応用生態工学会・日本緑化工学会・日本景観生態学会 森本淳子・根岸淳二郎

・日時：9 月 23 日（土） 13:30～15:30 会場：レクチャーホール

・内容：気候変動・地球温暖化に対する適応の第一歩は、生態系レジリエンスの定量化と増強である。集中豪雨による山腹崩壊と土石流の発生、農地や都市での洪水、大型台風による森林の倒壊、高潮や海岸浸食。これらの現象はすでに近年、激化の様相を見せており、将来、さらなる規模や頻度の増大が懸念されている。果たして、地球上の生態系はこのような自然かく乱に対してどの程度、回復力（レジリエンス）を持っているのだろうか。元来、自然かく乱は生態系の健全性を高め、レジリエンスを維持する役目も果たしてきた。しかし、人為改変された生態系についてはどうだろうか。激化する自然かく乱に備え、生態系レジリエンスを増強するにはどのような方法があるだろうか。この研究集会では、人為改変された多様な生態系における、自然かく乱に対する生態系レジリエンスを生き物の視点から紹介し、生態系レジリエンスを増強する方策について議論する。

※本集会に関連して英文誌 *Landscape and Ecological Engineering* 誌で特集号を企画します。
ご興味のある方は企画責任者まで。

発表予定

1. 森林生態系のレジリエンス～台風と森林植生～：森本淳子（北海道大学）
2. 里山生態系のレジリエンス～積雪と野生動物～：望月翔太（新潟大学）
3. 河川生態系のレジリエンス～洪水と水生昆虫～：根岸淳二郎（北海道大学）
4. 都市生態系のレジリエンス～高温と苔～：大石善隆（福井県立大学）
5. 海岸生態系のレジリエンス～津波と海岸植生～：富田瑞樹（東京情報大学）
6. 発表に対するコメント：中村太士（北海道大学）

● 火山地域における「自然共生」のために ELR でできること

C 2

・企画：応用生態工学会 田代 喬

・日時：9 月 23 日（土） 13:30～15:30 会場：講義室 1

・内容：2014 年 9 月に御嶽山噴火による被害を受けた長野県王滝村は、1984 年 9 月には、直下型の長野県西部地震に伴う大規模な山体崩壊（御嶽崩れ、約 3,600 万 m³もの土砂が流出）にも見舞われている。御嶽山南東斜面は、木曽川の一太支川・王滝川の集水域に位置づけられるが、こうした自然災害による影響に加え、戦前から戦中、戦後にかけては発電やかんがいを目的とする大規模な水資源開発が行われ、崩壊域では現在も治山・砂防事業が進められている。本集会では、主に応用生態工学会に所属するメンバーから、ヤマトイワナの「聖地」としても名高い王滝川水系の水環境の現状について、崩壊や噴火の影響とその回復過程、さらには、水資源開発による影響という観点から報告したうえで、火山地域における「自然共生」のために、ELR というコンソーシアムの枠組みでできることを論じたい。

● 日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会 研究集会「緑化用種苗のトレーサビリティをいかに確保するのか」 C 3

- ・企画：日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会 ・担当者：中島敦司，中村華子
- ・日時：9 月 23 日（土） 13:30～15:30 会場：ES ホール
- ・内容：環境省の自然公園における法面緑化指針が示されるなど，地域性種苗の活用機運は拡大してきていると言える。しかし，実際に「地域性」の定義がはっきり決まっているわけではなく，取り扱いについても発注者や事業者がそれぞれ検討・確認するにとどまっているのが現状である。今後取り扱い方法を改善していくため，最新の研究内容を紹介し，現状と今後の方向性について，以下の話題提供を中心に議論したい。

話題提供：(1)緑化用種子の産地を含む品質保証（外来草本類など）の現状（生産者・取扱者の立場から）／現状で可能なトレーサビリティの方法について，(2)遺伝情報の蓄積により可能となる提案，現状可能な方法から将来目指す方法論への展開・可能性について（緑化植物の研究現場から），(3)将来的には，主要な緑化植物の遺伝的地域区分，地域性系統の証明が可能になる。使用材料の輸入による問題として，緑化に利用する植物の遺伝的攪乱のリスクのほかに，輸入種子に他種が混入していることによる問題もある。証明や評価の可能性について，(4)現状で可能な発注方法などについての分析や提案，(5)緑化種苗に対して現状で可能なトレーサビリティシステムとは／先行事例として取り組む「熊本モデル」で試行採用する公開在庫制度について

● 日本緑化工学会 健康研究部会 研究集会「公衆衛生からみたグリーンインフラ」 C 4

- ・企画：応用生態工学会・日本緑化工学会 岩崎 寛・西廣 淳
- ・日時：9 月 23 日（土） 13:30～15:30 会場：ES021
- ・内容：国土交通省が掲げているグリーンインフラの目的には「安全・安心で持続可能な国土」「国土の適切な管理」「生活の質の向上」「人口減少・高齢化に対応した持続可能な社会の形成」が挙げられており，それに寄与する自然の機能として「良好な景観形成」「生物の生息・生育の場の提供」「浸水対策（浸透等）」「延焼防止」「外力減衰，緩衝」「地球温暖化緩和」「ヒートアイランド対策」に加え，「健康，レクリエーション等文化提供」が挙げられています。歴史的にみても都市公園は，地域住民の健康いわゆる「公衆衛生」を目的に整備された経緯があります。これまでも各学会において，グリーンインフラに関する議論が行われておりますが，この「公衆衛生」の視点からみたグリーンインフラに関する話題は少ないと思われます。そこで本研究集会では，公衆衛生という観点から，今後のグリーンインフラについて議論できればと考えています。

● 環境 DNA 研究の応用生態工学における展開 C 5

- ・企画：応用生態工学会 小出水規行
- ・日時：9 月 23 日（土） 13:30～15:30 会場：ES022
- ・内容：ここ数年，河川や水路，湖沼，海洋等の水域においてすくった水に含まれている DNA を分析し，ある特定の生物種やそこにいる多種について生息状況を推定する方法が注目を浴びている。この方法は環境 DNA 分析と呼ばれ，生体から放出され，水に漂っている代謝物や糞等に由来する微量の DNA を検出している。現場では水をくむだけでよく，低コストでありながらも，分析精度が高いことが大きな利点である。しかしながら，実用に至るまでにはまだいくつかの課題も残され，環境 DNA 分析はまさに時の研究テーマとなっている。このような状況のもと，応用生態工学でも環境 DNA 分析は現行の個体採捕を代替または補完するモニタリング手法として，生物種や生態系の保全に向けた応用研究に適用可能である。本研究集会では環境 DNA 分析の特徴や具体的な方法を解説しながら，最前線にいる研究者から最新の話題を提供してもらい，今後の当該分野における期待や展開等について議論したい。

● 田んぼのいきものをどうやって守っていくか？その 2－水田水域における多様な生物の保全と再生
C 6

- ・企画：応用生態工学会 田和康太（土木研究所・河川生態チーム）・佐川志朗（兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園）・河口洋一（徳島大学）
- ・日時：9 月 23 日（土） 13:30～15:30 会場：ES024
- ・内容：水田とその周辺の農業水路やため池などから成る水田水域は、近代まで生物多様性の高い空間であった。しかし、全国的な傾向として、戦後の強毒性農薬の使用や 1960 年代から本格化した圃場整備事業による水域の連続性消失，中山間部での耕作放棄の進行等により，水田水域における生物多様性は大幅に低下した。そうした中，減・無農薬栽培や湿田および未整備の水田の特性を生かした工法と農法の導入など，1990 年代頃から水田の生物多様性保全に着目した様々な取り組みが各地で実施され，その効果が期待されている。大型の保全対象種に焦点を当てた昨年度の集会に引き続き，今年度の集会では，農業水路やビオトープ，承水路といった生物の「生息場」に着目し，保全に向けた取り組み事例とこれらに対する定量的評価の結果を紹介する。そして，水田水域における生物の保全を将来的にどのような手段で進めていくべきか議論する。
- ・趣旨説明
田和康太
- ・話題提供
 - ①水田水域における野外コウノトリの食性を安定同位体比から探る（仮題）・・・佐川志朗
 - ②水田ビオトープとマルチトープの造成による水生動物群集の保全（仮題）・・・田和康太
 - ③水田水路網における魚類の移動について（仮題）・・・関島恒夫（新潟大学）
 - ④ほ場整備後の水田域におけるカエル類の生息場の保全について（仮題）・・・渡部恵司（農研機構）
- ・総合討論
司会・・・河口洋一

《エクスカーショーン》

「自然の仕組みを活かした先人」に思いを馳せながらグリーンインフラの未来を語ろう!!

環境配慮型の社会基盤整備先進事例を『自然の仕組みを活かした国土や地域の管理＝グリーンインフラストラクチャーの整備』の視点から捉え直し，未来を見据える機会にしたいと思います。

■概要

今回のエクスカーショーンでは，環境配慮型の社会基盤整備先進事例を『自然の仕組みを活かした国土や地域の管理＝グリーンインフラストラクチャーの整備』の視点から捉え直し，未来を見据える機会にしたいと思います。日本緑化工学会，日本景観生態学会，応用生態工学会の 3 学会の研究者の皆さんの様々な視点から，革新的な意見交換を期待しています。

まず，郡上八幡では，環境省名水百選の第一号指定地として知られる宗祇水をはじめとする「水舟」という独特の水利用形態（今なお 10 ヶ所に現存し，住民が組合を組織して保全している。）と街中に整備された水の小径（こみち）を活かしたまちづくり，親水歩道，多自然型川づくりの取り組みを視察します。また，世界農業遺産に指定されている『清流長良川の鮎』に注目しながら，引き継がれてきた伝統的な漁法，水と密接なつながりのある郡上染などの伝統工芸を含む長良川の持続的なシステムを学び，里川のあり方について意見交換したいと考えています。

<http://www.gujokankou.com/feature>

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kensei/ken-gaiyo/soshiki-annai/nosei/satokawa-shinko/giahs/giahs-ayu-of-the-nagara-river-system.html>

視察後半では、国土交通省多治見砂防国道事務所によって進められている土岐川流域グリーンベルト整備事業と里山砂防事業を視察します。美濃焼の産地でもある当該地域では燃料を得るため山林の伐採や陶土の採掘が行われてきました。その結果、とくしゃ地（いわゆる、はげ山）が一面に広がり、少雨でも土砂が流出し、土砂災害が頻発していました。その対策として、1943 年には文化遺産に指定されている浦山第二砂防堰堤が整備され、1952 年には団子山地区において日本初の「等高線濠工法」と呼ばれる山腹工が導入されました。また、近年においても、2000 年、市之倉地区においては市之倉おりべ砂防堰堤周辺の歩道整備が地域住民参画型で進められるなど、先進的な取組みが展開されています。先人の努力に思いを馳せながら、植生の変化、砂防緑化事業の目的の多様化や、現代的な課題について意見交換したいと考えています。

http://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/sabo/tokigawa/tokigawa_gbindex.html

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/sabo/satoyama/>

■日程および概要

- ・日 程：2017 年 9 月 25 日（月） 8：00～17：30（名古屋大学 集合、名古屋駅・中部国際空港 解散）
- ・参加費：検討中
（正会員 8,000 円、学生会員 4,500 円（郡上八幡・昼食代を含む。）を予定していますが、企画の詳細について調整中につき、変更の可能性があります。）
- ・定 員：60 名（先着順）

■見学地

- ・郡上八幡：宗祇水、吉田川を軸とした街づくり取組み、多自然川づくりなどを予定
- ・多治見市及び周辺：虎溪山（等高線濠工法施工地）、浦山第二砂防堰堤（登録有形文化財）などを予定

■スケジュール

- ・集 合：名古屋大学を 8：00 に出発する予定です。それよりも前にお集まりください。
集合場所の詳細については個別に連絡させていただきます。
- ・解 散：17:30 名古屋駅・中部国際空港
（飛行機便等の関係で早めの帰路を希望される方については、個別に対応させていただく予定です。別途、ご相談ください。）
- ・見学日程（予定：視察先との調整中につき、変更の可能性があります。）
8：00 出発（名古屋大学）
8：00～9：30 移動
9：30～12：30 郡上八幡：宗祇水、吉田川を軸とした街づくり、長良川における多自然川づくりの視察（昼食を含む。）
12：30～13：30 移動
13：30～16：30 多治見市及び周辺：虎溪山、浦山第二砂防堰堤等の砂防緑化の取組みを視察
（飛行機便等の関係で早めの帰路を望む方は 15：30 帰路バスへ乗車ください。）
16：30～17：30 移動
17：30 名古屋駅・中部国際空港到着・解散

■留意事項・申込方法・問合せ先

- ・ご注意：軽登山となる視察先もあり、ぬかるんでいるところがありますので、履物にご注意ください。昼食は付いていません。雨天決行です。
- ・申込方法

①～⑦を明記のうえ、下記までお申し込みください。

ELR2017 エクスカーション係 E-mail: elr2017excursion@gmail.com

件名について、【ELR2017 エクスカーション申込】と明記してください。

①氏名、②所属学会、③所属機関、④E-mail、⑤緊急時連絡先（携帯電話）

⑥帰路の予定（どこから・いつごろ）

例：名古屋駅から・18 時頃出発、中部空港から・19 時頃出発 など

現時点の予定でかまいません。変更がある場合は別途、申しつけください。

⑦その他：学生会員の場合はその旨お書きください。その他、ご依頼事項があればお書きください。

・問合せ先

E-mail: elr2017excursion@gmail.com

FAX: 0564-47-7967 TEL: 0564-47-7970

（グリーンフロント研究所(株) ELR エクスカーション係：小串・清水）

《ビジネスミーティング》

- ・数多くのビジネスミーティングが予定されています（日本緑化工学会、日本景観生態学会、応用生態工学会、英文誌 LEE）。
- ・ビジネスミーティングに参加する必要がある各位は、大会ホームページ等、今後の最新情報でご確認ください。

《その他のお知らせ》

- ・日本緑化工学会の講演要旨集（ELR2017 名古屋の講演要旨集とは異なります。）を受付にて販売しています。また、ELR2017 名古屋の講演要旨集だけの販売も行っています。
 - ・昼食（学内）は、9 月 22 日（金）はダイニングフォレスト（11:00～20:00）とレストラン花の木（11:00～14:00）などのレストランが営業しています。23 日（土）、24 日（日）はレストランは利用できません。学内ではファミリーマートのみが営業しています。
- なお、23 日（土）と 24 日（日）の 2 日間は、予約制で弁当を販売いたします。弁当をご希望の方は、8 月 31 日（木）までに代金を振り込むとともに、メールでご連絡ください。引換券をお送りします。価格はお茶付きで 1 食 1,000 円です。

振込先：ゆうちょ銀行から

名義 ELR2017 実行委員会

記号 12010 番号 14246511

（ゆうちょ銀行以外から 店名 二〇八 店番 208 普通 1424651）

振り込み時の名義は、氏名の前に登録番号を入れてください（氏名の後では通帳に印字した時に尻切れになるおそれがあります。）。

メール連絡先: elr2017office@gmail.com

連絡内容：9/23 必要数 ○個、9/24 必要数 ○個、登録番号（大会参加登録時に事務局からの返信メールにあった登録番号。参加費振込時に記載のものと同一。）、氏名

- ・学外のレストランについては、当日、地図を掲示します。
- ・喫煙は指定の場所で行ってください。屋外に数ヶ所設置しています。
- ・航空券や宿泊などの手配については、参加者各自で行ってください。

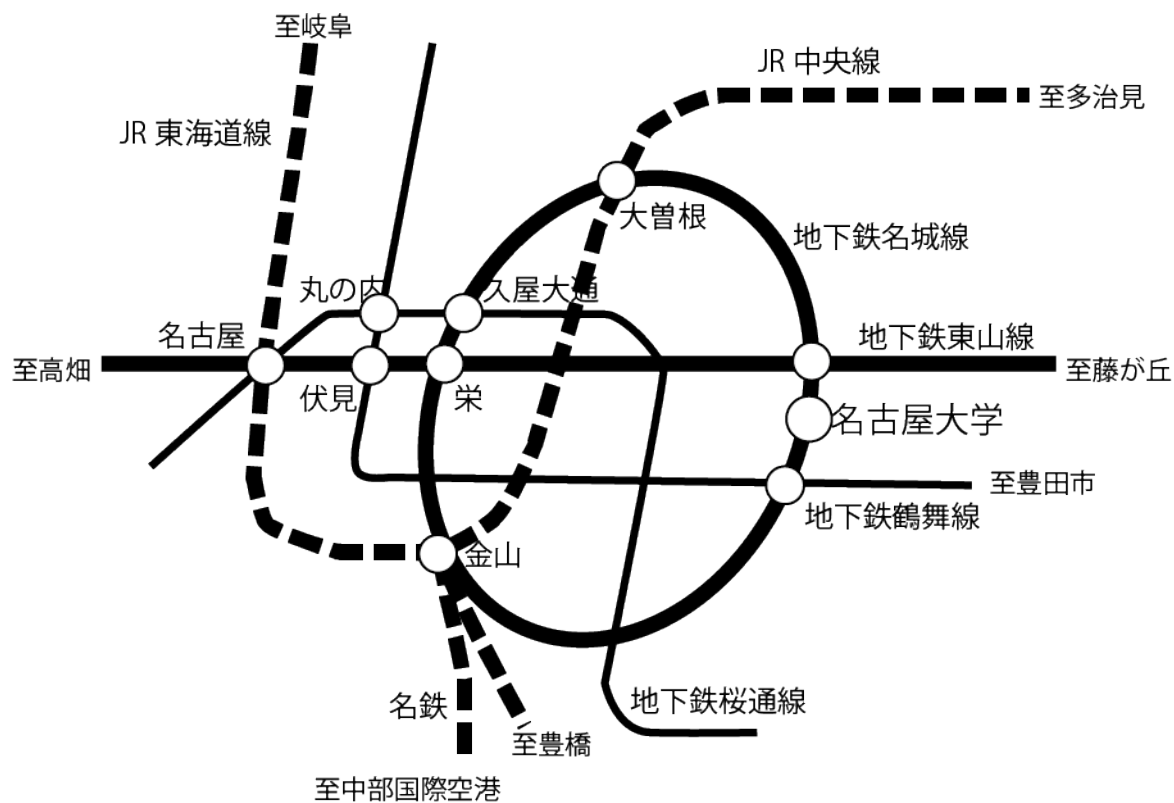
《会場へのアクセス》

・名古屋駅から

◆名古屋市営地下鉄東山線（藤が丘方面）に乗車，本山駅で名城線に乗り換え，名古屋大学駅下車．2 番出口または 3 番出口．

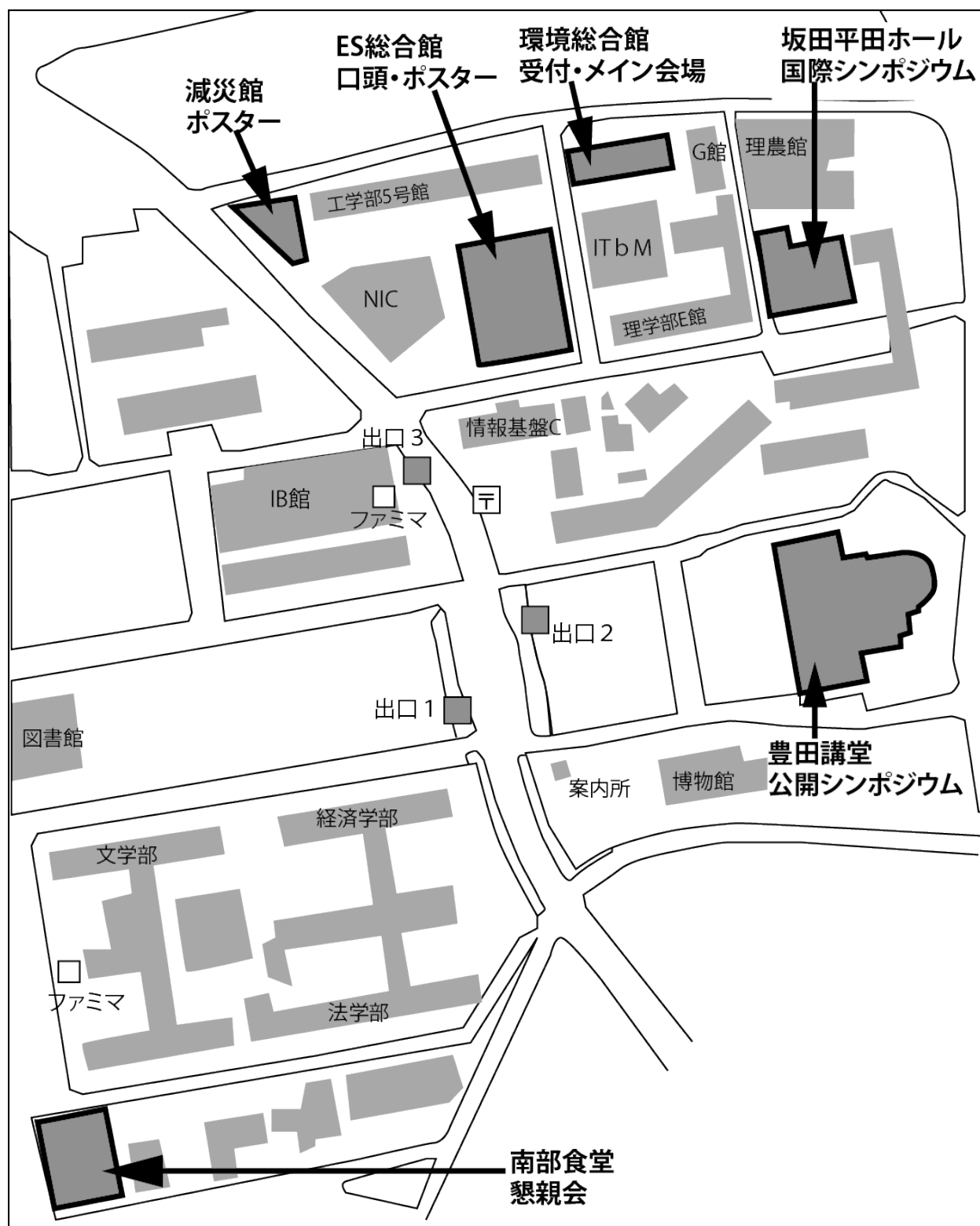
・中部国際空港から

◆名鉄で金山駅下車，地下鉄名城線で名古屋大学駅下車

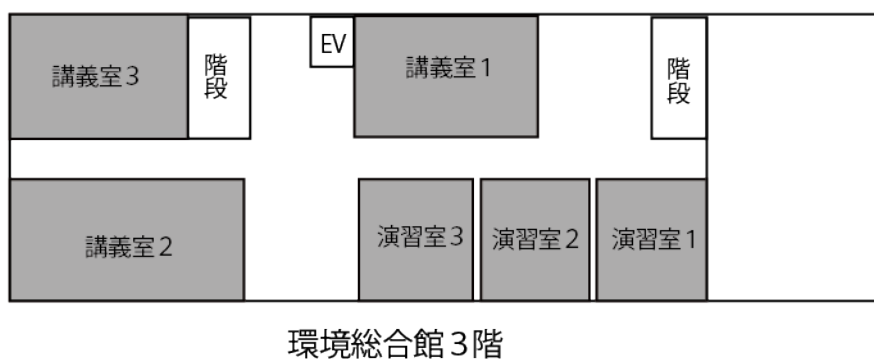
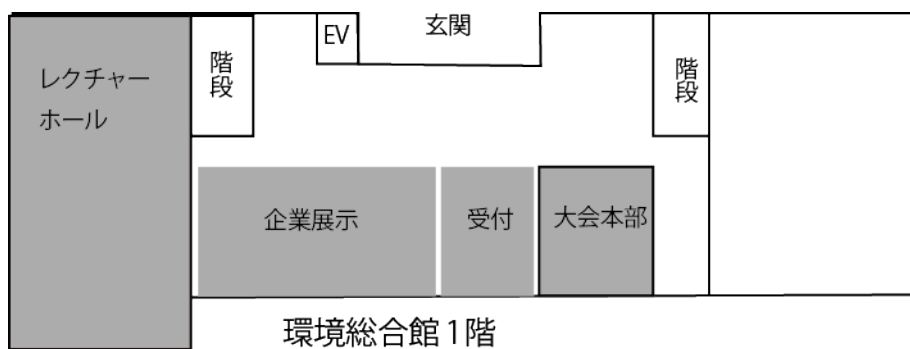


名古屋大学へのアクセス

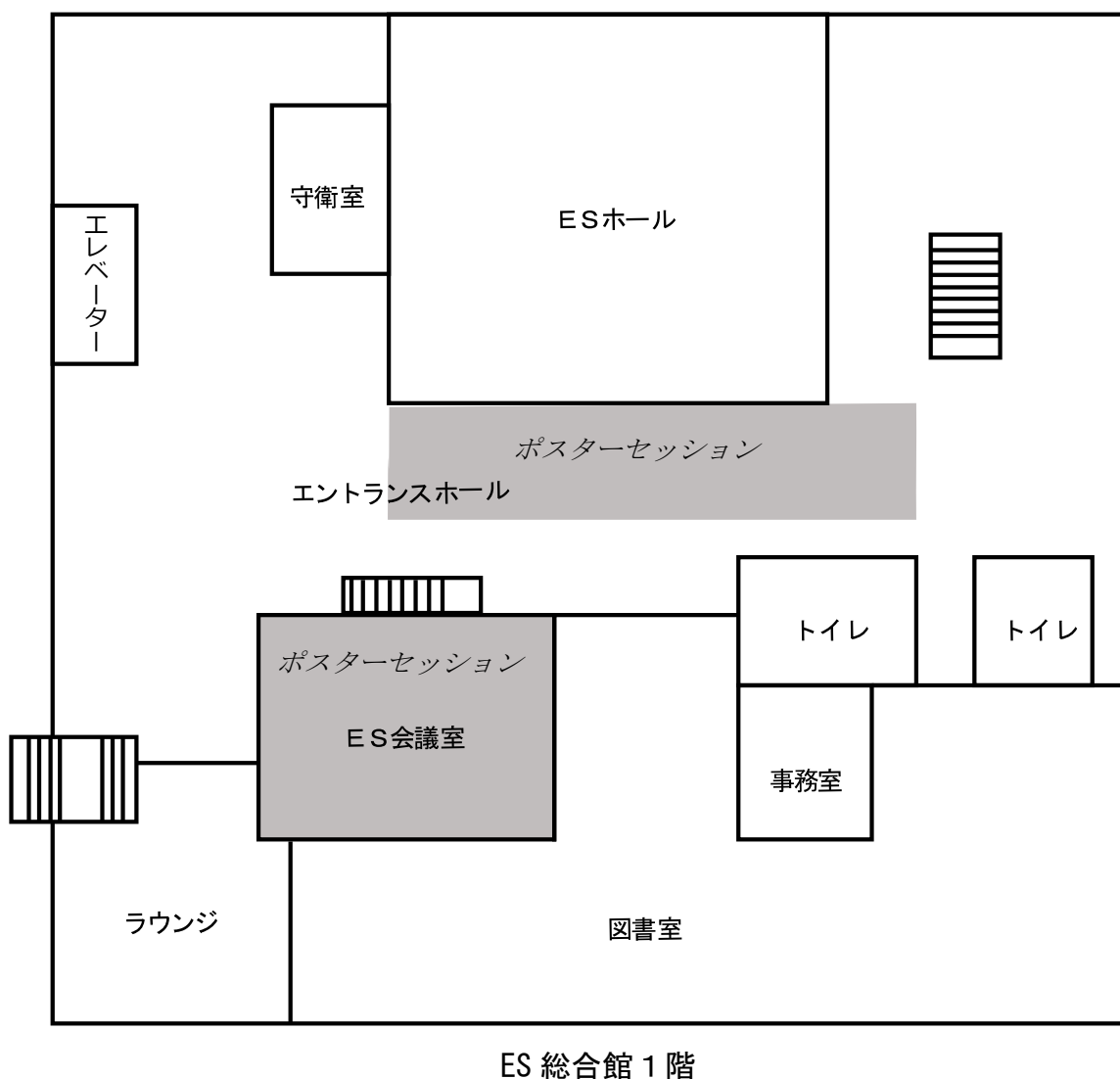
《会 場》



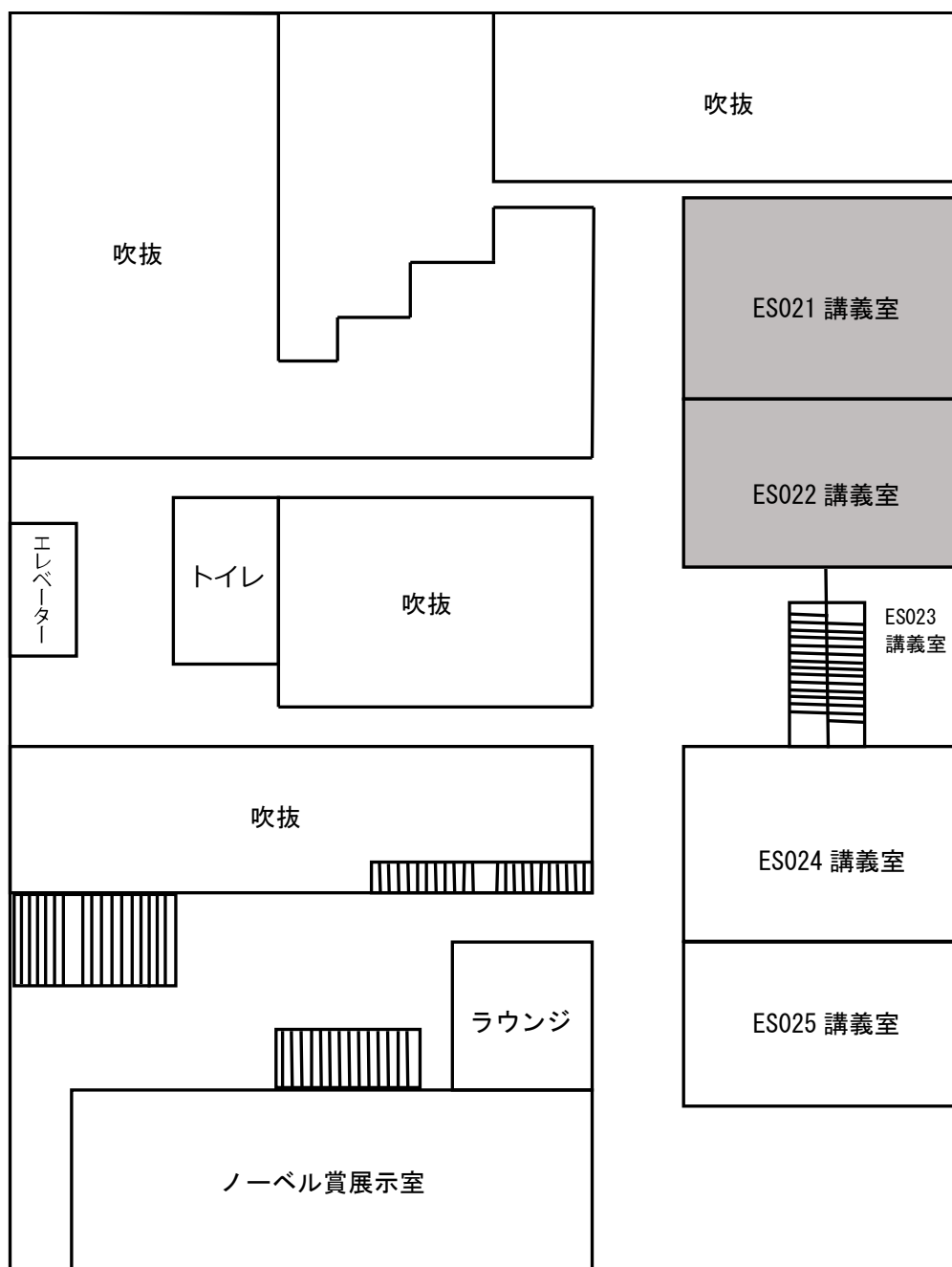
会場配置図（出口1～3は地下鉄名城線名古屋大学駅出口）
（環境総合館から南部食堂まで徒歩で15分近くかかります。）



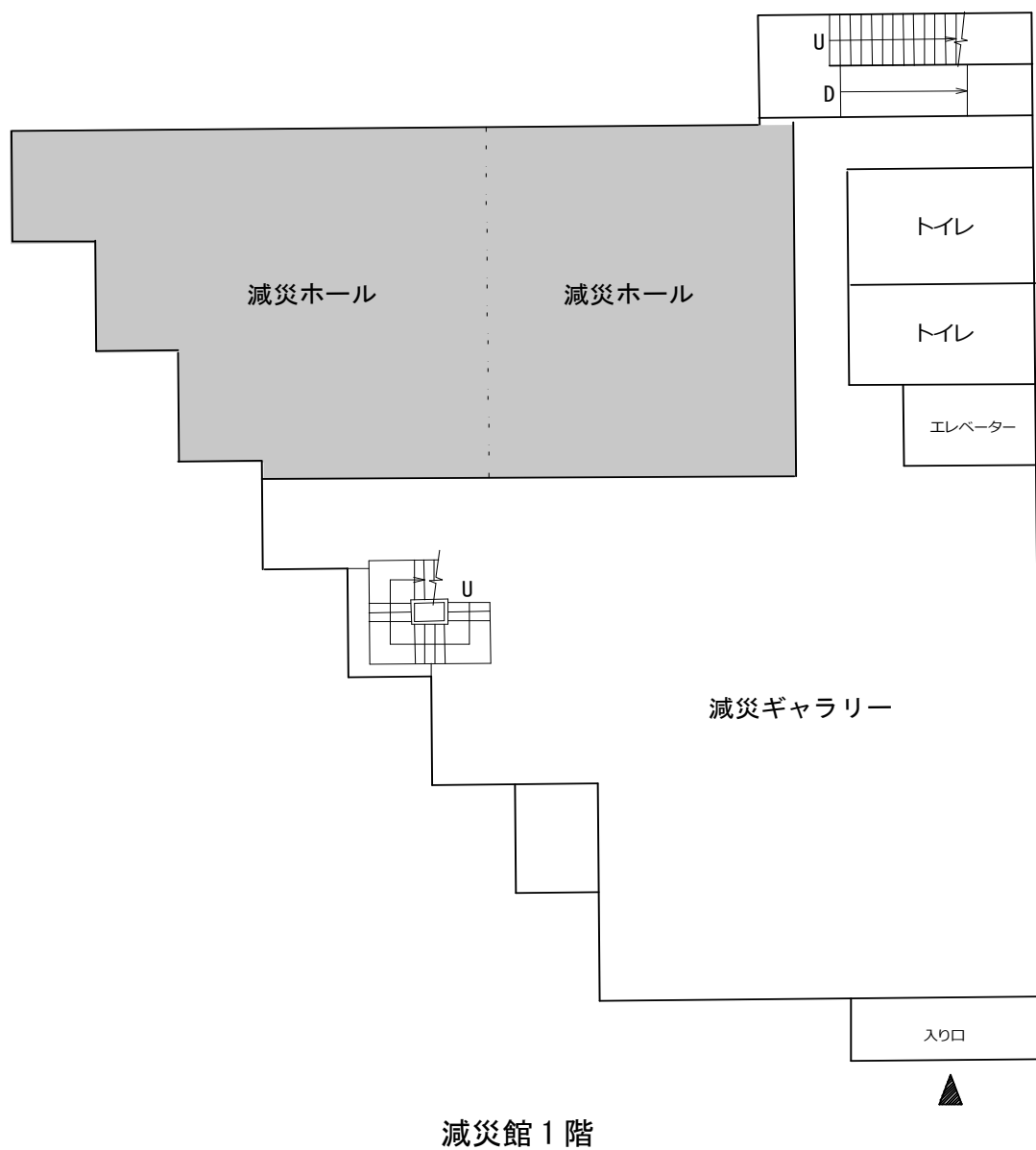
会場配置図：レクチャーホール，講義室 1～3，演習室 1～3
 (環境総合館：第 2 会議室は 2 階，談話室は 5 階にあります.)



会場配置図：エントランス，ES ホール，ES 会議室



ES 総合館 2 階
会場配置図 : ES 講義室 ES021・ES022・ES024



会場配置図：減災ホール

《プログラム・会場対応表》

22日(金) 会場		8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
環境 総合館	エントランス	受付											
	第1会議室	大会事務局											
	レクチャーホール	クローク											
	講義室1	研究集会											
	講義室2	研究集会											
	講義室3	研究集会											
	演習室1	景観生態学会											
	演習室2	緑化工学会											
	演習室3	応用生態工学会											
	ESホール	研究集会											
23日(土) 会場		8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
環境 総合館	エントランス	受付											
	第1会議室	企業展示・書籍											
	レクチャーホール	大会事務局											
	講義室2	ICLEE(口頭)・研究集会											
	演習室1	ICLEE											
	演習室2	緑化工学会											
	演習室3	応用生態工学会											
	休憩室	ICLEE理事運営											
	ESホール	口頭発表・研究集会											
	エントランス	ポスター											
ES館	会議室	ポスター											
	ES021	口頭発表・研究集会											
	ES022	口頭発表・研究集会											
	ES024	研究集会											
減災館	減災ホール	ポスター											
坂田・平田ホール	国際シンポジウム												
南部食堂	懇親会												
24日(日) 会場		8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
環境 総合館	エントランス	受付											
	第1会議室	企業展示・書籍											
	レクチャーホール	クローク											
	講義室1	一般講演(口頭)											
	講義室2	一般講演(口頭)											
	演習室1	景観生態学会											
	演習室2	緑化工学会											
	演習室3	応用生態工学会											
	休憩室	休室											
	ESホール	口頭発表											
ES館	エントランス	ポスター											
	会議室	ポスター											
減災館	減災ホール	ポスター											
豊田講堂	公開シンポジウム												
25日(月)		8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
エクスカーション													

《参加申込み》

- ・参加申込みは、下記の大会ホームページ内の「【3 学会会員】参加申込フォーム」または「【非会員】参加申込フォーム」にて登録してください。

大会ホームページ <https://sites.google.com/view/elr2017/ホーム>

- ・所属会社等でのインターネットのアクセス制限により、参加申込フォームが表示されない場合があります。参加申込フォームが表示されない場合には、アクセス制限のないパソコン環境を利用して申し込んでいただくか、あるいは、以下の事項を記載して大会実行委員会あてにメールで申し込んでくださるよう、お願いします。

【3 学会会員の場合】 (*は必須)

氏名*, 所属*, 住所*, 電話番号*, FAX, E-mail アドレス*, 所属学会* (日本景観生態学会／日本緑化工学会／応用生態工学会), 会員種別* (正会員／学生会員／賛助会員), 懇親会* (参加／不参加)

【非会員の場合】 (*は必須)

氏名*, 所属*, 住所*, 電話番号*, FAX, E-mail アドレス*, 申込種別* (一般／学生), 懇親会* (参加／不参加), どこか所属されている学会があれば学会名を記載

ELR2017 名古屋実行委員会 E-mail: elr2017office@gmail.com

- ・大会参加費は、ELR 参加の 3 学会の正会員・賛助会員 5,000 円 (当日参加 6,000 円), 学生 (非会員同額) 2,000 円, 一般 (非会員) 8,000 円です。懇親会参加費は、一般 (非会員同額) 5,000 円, 学生 (非会員同額) 3,000 円です。

早期参加申込みと参加費振込の締切りは 8 月 31 日 (木) です。

大会参加の申込みをいただいた方には、折り返し、振込等の案内を差し上げますので、それに従って参加費の振り込みをお願いします。

《ELR017 名古屋 実行委員会》

実行委員長 夏原由博 (名古屋大学)

実行委員 (五十音順)

日本緑化工学会: 岩崎 寛, 大藪崇司, 橘 隆一, 田中賢治, 中島敦司 (幹事長), 中村華子, 福井 亘, 福永健司, 村上健太郎

日本景観生態学会: 伊東啓太郎, 鎌田磨人, 小串重治, 鈴木重雄, 竹村紫苑, 丹羽英之, 橋本啓史, 日置佳之, 藤田直子, 藤原道郎 (幹事長), 村上拓彦, 望月翔太, 森本淳子

応用生態工学会: 青江 淳, 浦川苑子, 沖津二郎, 尾花まき子, 河口洋一, 関根秀明, 田代 喬, 藤田乾一 (幹事長)

《 研究発表プログラム 》

口頭発表 9 月 23 日 (土)

- | | 【ES ホール】 河川環境 | 【講義室2】 動物、道路 |
|-------|---|---|
| 9:00 | 【23-1】鴨川水系の落差工設置河道における魚類群集の分布様式
○横田康平、竹門康弘、藤原正幸(京都大学) | 【23-10】摩耗程度の異なるコンクリート壁面に対するカエル類4種の脱出能力の比較
○田中雄一、河村年広、佐伯晶子、加藤 久(愛知県農業総合試験場) |
| 9:15 | 【23-2】天竜川におけるアユ繁殖場の生息場学的研究
○竹門康弘(京都大学)、兵藤 誠(いであ株式会社)、角 哲也(京都大学) | 【23-11】Impact of habitat disturbance on tadpole community and tadpole-mediated ecosystem services in rainforest streams in Madagascar
○Noelikanto Ramamonjisoa, Yoshihiro Natsuhara (Nagoya University) |
| 9:30 | 【23-3】石狩川旧川群における捕獲調査と環境 DNA メタバーコーディングによる魚類相把握
○藤井和也((株)福田水文センター)、土居秀幸、松岡俊将、永野真理子(兵庫県立大学)、佐藤博俊、山中裕樹(龍谷大学) | 【23-12】立山カルデラにおけるホンドオコジョと共存した砂防事業の実現に向けた取り組み
浅井誠二、石井 崇、村元陽介、山根恭子(国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所)、○澤樹征司、鈴木荘司、柴田 閑、吉井千晶(株式会社建設技術研究所) |
| 9:45 | 【23-4】砂防堰堤壁面に生息するクラマナガレトビケラ
○平 祥和(大阪府立大学) | 【23-13】風況特性に注目したオジロワシの風車衝突リスクの予測
○藪原佑樹、林 佑亮、河口洋一(徳島大学)、赤坂卓美(帯広畜産大学)、内田孝紀(九州大学)、齊藤慶輔(猛禽類医学研究所)、山田芳樹(株式会社ドーコン) |
| 10:00 | 【23-5】アミノ酸混和コンクリートによる底生動物の生息場創出の持続効果
○川島大助、御室伸太郎、木村哲也、飯干富広、西村博一、中西 敬(日建工学) | 【23-14】春夏秋冬:いつでも湿地にエゾシカが!
○吉田剛司、更科美帆、菅野 慎、佐藤瑞奈(酪農学園大)、稲富佳洋、宇野裕之(北海道総合研究機構) |
| 10:15 | 【23-6】豊川用水 初立池におけるニラバラン保全対策
○小林 淳、土田百合子((独)水資源機構) | 【23-15】伊勢自動車道のエコロード 20 年の評価
○岩田朋子、水島秀二(中日本高速道路株式会社)、西牟田和沙(株式会社高速道路総合技術研究所) |
| 10:30 | 【23-7】内水面水産資源の堅牢な管理指針を見出すための微分ゲーム理論
○吉岡秀和(島根大学)、八重樫優太(京都大学) | 【23-16】新東名高速道路愛知区間において実施された自然環境保全措置とその効果
○春田章博、菅野太郎(株式会社環境グリーンエンジニア)、早河辰郎(中日本高速道路株式会社)、織田銃一(元名古屋大学) |
| 10:45 | 【23-8】川内川激特事業における「河川」と「まち」の再生
○小林清文(株式会社大進・九州大学工学部)、林 博徳、島谷幸宏(九州大学) | 【23-17】新東名高速道路におけるトウカイナガレホトケドジョウの保全措置とその効果
○山崎篤実、吉津祐子(株式会社荒谷建設コンサルタント)、伊藤正人(中日本高速道路株式会社)、森 誠一(岐阜経済大学) |
| 11:00 | 【23-9】東京湾の魚類多様性再生に向けた検討ー希少種の生息場利用への着目ー
○秋山吉寛、黒岩 寛、岡田知也(国土交通省国土技術政策総合研究所) | 【23-18】新東名高速道路における河川底生動物を指標とした工事中・供用後の水質・土砂流出の監視
○菅野太郎、春田章博(株式会社環境・グリーンエンジニア)、平尾義男(中日本高速道路株式会社)、内田臣一(愛知工業大学) |

口頭発表 9 月 23 日 (土)

- | | 【ES021】生態系サービス、都市環境 | 【ES022】海岸、植生 |
|-------|---|---|
| 9:00 | 【23-19】白山山麓の大規模地すべり地における植生復元に関する研究
○柳井清治、田口 真(石川県立大学) | 【23-25】人工的に創出された海浜における底生生物相の変遷
○東 和之、大田直友(阿南高専) |
| 9:15 | 【23-20】愛知・岐阜の道の駅における山菜利用
○夏原由博(名古屋大学) | 【23-26】海岸砂丘系における自然堤防の復元力と海浜植生
○松島 肇、奥山賢汰(北海道大学)、平吹喜彦(東北学院大学)、岡田 穰(専修大学) |
| 9:30 | 【23-21】調理による山菜の減セシウム効果
○小林達明、中平史織(千葉大学) | 【23-27】海岸砂地における「はまみどりマット」敷設による植物の生育環境の改善効果
○岡村怜美、森 千夏、田中賢治、熊田啓之(特定非営利活動法人自然再生技術協会) |
| 9:45 | 【23-22】都市部の湧水の教材化: 名古屋市千種区における事例研究
○野崎健太郎(相山女学園大学) | 【23-28】小型 UAV を用いた海岸マツ林の林床光環境の推定
○佐々木剛、朝波史香、鎌田磨人(徳島大学)、丹羽英之(京都学園大学) |
| 10:00 | 【23-23】京都市白川における都市内河川の空間構造に対する地域住民の選好性
○小田龍聖(京都大学)、脱 穎(TECRIVER 株式会社)、深町加津枝、柴田昌三(京都大学) | 【23-29】高知市種崎における里海の鳥類群集
○楠瀬雄三(エコシステムリサーチ/京都府立大学)、福井 亘(京都府立大学) |
| 10:15 | 【23-24】都市公園「帯広の森」で植栽後 33 年を経て定着した在来草本・木本の分布と林分タイプとの関係
○宮崎直美(岩手大学/帯広の森・はぐくむ)、平田昌弘、三浦華織(帯広畜産大学) | 【23-30】田面水を被覆したプラスチックカプセルが減水深および水田雑草量に及ぼす影響とそれらがイネ初期生育に与える効果
○高柳春希、西田隆義(滋賀県立大学) |
| 10:30 | | 【23-31】踏圧処理が畦畔雑草植生に及ぼす影響
○稲垣栄洋、稲垣舜也(静岡大学)、加藤百合子((株)エムスクエア・ラボ)、河合 真((株)スズキ)、砂川利広((株)農建) |
| 10:45 | | 【23-32】下草刈り取り管理下にある盛土法面の植生の特徴
○小宅由似、今西純一(京都大学)、石原一哉(西日本高速道路株式会社)、小倉 功(中日本高速道路株式会社)、柴田昌三(京都大学) |

口頭発表 9 月 24 日 (日)

- | | 【講義室1】 ダム、水環境 | 【講義室2】 河川環境 |
|-------|--|---|
| 9:00 | 【24-1】洪水期モニタリングによるダム上下流の土砂移動状況の把握
○竹内洋介、青柳克憲、枘本 拓(東日本旅客鉄道株式会社) | 【24-12】自然堤防帯を流れる河川高水敷掘削後の土砂再堆積過程に流域特性が与える影響
○原田守啓、アマナトウラ サヴィトリ、角田美佳(岐阜大学) |
| 9:15 | 【24-2】ダム下流における河床材と底生動物群集の経年的な変化と土砂還元による改善経路
○波多野圭亮、角哲也、竹門康弘(京都大学)、荒井稔((独)水資源機構) | 【24-13】川のかたちと河岸の自律・安定～河岸高に着目した最適な横断形の設定に向けて～(仮)
○渡辺恵三、岩瀬晴夫(株式会社北海道技術コンサルタント)、ト部浩一(北海道立総合研究機構) |
| 9:30 | 【24-3】ダム下流における排砂バイパス運用後の底生動物群集の変化
○小林草平、角哲也、竹門康弘(京都大学)、袋井肇(関西電力) | 【24-14】網状流路への植生侵入特性
○久加朋子(北海道大学)、山口里実(寒地土木研究所)、渡邊健人、清水康行(北海道大学) |
| 9:45 | 【24-4】通し回遊型生物に対するダムの影響評価
○鳥居高志(いであ株式会社)、石水秀延、池原浩太、座覇洋、平良譲治(内閣府沖縄総合事務局北部ダム統管理所) | 【24-15】河川高水敷における裸地の出現時期がその後の成立植生に及ぼす影響
○山田晋、根本正之(東京大学) |
| 10:00 | 【24-5】三春ダムにおけるリフレッシュ放流を活用したブルーギルの繁殖抑制の試験的取り組み
○坂本正吾、浅見和弘(応用地質株式会社)、大杉奉功(一般財団法人水源地環境センター)、中井克樹(滋賀県立琵琶湖博物館)、菊地裕光、三浦博之(三春ダム管理所) | 【24-16】埼玉県西部、槻川における河床型の分類と分布
○平山晴庵(i-or-i Landscape Design) |
| 10:15 | 【24-6】沖縄県久米島のカンジンダム貯水池における外来魚駆除の多面的効果ー亜熱帯島嶼の自立・持続的水資源環境管理に向けた産官学童団の連携の試みー
○佐藤文保(久米島町ホテル館)、古里栄一(埼玉大学) | 【24-17】アイスハーバ型魚道の流れ特性とその数値解析モデルによる再現性
○西岡雄太、木村一郎(北海道大学)、旭峰雄(国土交通省北海道開発局) |
| 10:30 | 【24-7】河内川ダム(福井県若狭町)建設予定地に生育するサンショウソウ(<i>Pellionia minima</i> Makino)の移植およびモニタリング
○松井 明(京福コンサルタント株式会社) | 【24-18】中規模河床形態に着目した懸濁成分の流程変化に関する研究
○高橋真司(東北大学)、竹門康弘(京都大学防災研究所)、兵藤誠(いであ株式会社) |
| 10:45 | 【24-8】小石原川ダムにおけるコキクガシラコウモリの生息環境を考慮したねぐら環境の創出
○村田 裕、中野春男((独)水資源機構)、荒井秋晴(九州歯科大学) | 【24-19】扇状地端部を流れる湧水河川の水環境
○田代 喬(名古屋大学) |
| 11:00 | 【24-9】浅い湖沼における底泥有機態リンの動態について
○篠原隆一郎、広木幹也、高津文人、今井章雄(国立環境研究所)、井上徹教(港湾航空技術研究所)、古里栄一(埼玉大学)、小松一弘、佐藤貴之、富岡典子、霜鳥孝一、三浦真吾(国立環境研究所) | 【24-20】The effects of iron and light intensity on the growth and stress responses of <i>Egeria densa</i>
○Liping Xia, Mahfuza Parveen, Takashi Asaeda(Saitama University) |
| 11:15 | 【24-10】ケイ酸溶出材料 SCC の開発と河川での暴露実験
高崎みつる(石巻専修大学)、○神尾重雄、山下剛史、遠藤伸二(ニュージェック)、吉村直孝(総合水研究所)、萩原英壽(環境工学(株)) | |
| 11:30 | 【24-11】Tegel 湖における IDH を活用した気泡循環対策の効果とアンテナ色素浮力周波数理論の検証
○古里栄一(埼玉大学)、Jutta Fastner(Federal Environment Agency Germany Ingrid Chorus)、今本博臣(水資源機構) | |

口頭発表 9 月 24 日 (日)

- | | 【ES ホール】緑化 | 【レクチャーホール】グリーンインフラ |
|-------|--|--|
| 9:00 | 【24-21】巻機山(上越地方)の山頂付近に生育するグラミノイド代表種の種子発芽とその地表面温度
○角谷文代(東京農業大学)、桑山直子(JA アグリげんきの郷)、鈴木貢次郎(東京農業大学) | 【24-31】道路事業におけるグリーンインフラの実装に向けた課題に関する一考察
○大城温、長濱庸介、井上隆司(国土交通省国土技術政策総合研究所) |
| 9:15 | 【24-22】在来草本6種の発芽有効深と発芽温度特性について
○寺井学(株式会社大林組) | 【24-32】福岡における分散型水管理の実装と地域コミュニティ
○山下三平(九州産業大学)、島谷幸宏(九州大学)、渡辺亮一(福岡大学) |
| 9:30 | 【24-23】植生基盤材の厚さや保温シートが積雪寒冷地の緑化植物の生育に与える影響について
○佐藤厚子、山田充、山梨高裕(土木研究所) | 【24-33】グリーンインフラの要素技術である雨水貯留浸透基盤の設置による微気象改善効果—微気象の人力測定結果—
○野島義照(東邦レオ株式会社)、千木良泰彦(横浜市)、津久井敦士(株式会社三菱地所設計)、益田宗則(日本工営株式会社)、武田治夫、木田幸男(東邦レオ株式会社)、藤崎健一郎(日本大学) |
| 9:45 | 【24-24】落葉広葉樹 13 種の種子発芽に対する湿層処理の効果
○益田 光、武井理臣、橘 隆一、福永健司(東京農業大学) | 【24-34】ガバナンス論に基づく海岸マツ林の持続性評価—3地域における保全活動の比較から—
○朝波史香(徳島大学)、伊東啓太郎(九州工業大学)、鎌田磨人(徳島大学) |
| 10:00 | 【24-25】高標高風衝荒廃地における非面的吹付緑化工の効果
○小野幸菜、吉田 寛(東興ジオテック株式会社/斜面樹林化技術協会) | 【24-35】地域住民の常識知を生かした持続的な生活環境の形成に関する研究—東日本大震災津波被災地小湊浜表浜港における災害復旧事業への住民の対応を例として—
○廣瀬俊介(風土形成事務所)、阿部聡史(女川みらい創造株式会社) |
| 10:15 | 【24-26】壁面緑化システムの構造と樹木の生育特性
○佐久間 護(株式会社竹中工務店) | 【24-36】山地の歴史的景観を復元する—北九州市帆柱連山の山城遺跡から—
○中西義昌、御前明洋、真鍋徹(北九州市立自然史・歴史博物館) |
| 10:30 | 【24-27】法面方位の違いを考慮した2種類の外来草本植物の根系を含む土供試体のせん断特性
○宗岡寿美(帯広畜産大学)、菅原大貴(日本中央競馬会)、山崎由理(岩手大学)、木村賢人、辻修(帯広畜産大学) | 【24-37】巨椋池を活用した淀川流域の治水手法と生態系創出に関する研究
○北村美紗樹、石田裕子、澤井健二、瀬良昌憲(摂南大学)、小川芳也((一社)近畿建設協会)、前川勝人(水辺に学ぶネットワーク)、平子遼、北村幸定(大阪府立大学工業高等専門学校) |
| 10:45 | 【24-28】植生指数(NDVI)による樹木評価について
○小澤徹三、高橋英樹、極楽寺準也(西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社)、首藤繁雄、宇野久水(西日本高速道路株式会社) | 【24-38】九州太平洋沿岸域におけるグリーンインフラの視点を踏まえた津波防災に関する研究
○板垣早香(株式会社バイタルリード)、藤田直子(九州大学) |
| 11:00 | 【24-29】暑熱環境に対する街路樹の影響を推定する分布型 GIS モデルの開発
○平林 聡(The Davey Tree Expert Company)、阿部 勉、今村史子、森岡千恵(日本工営株式会社) | 【24-39】都市における自然環境の修復・再生とランドスケープデザイン
○伊東啓太郎、須藤朋美、Shwe Yee Lin(九州工業大学) |
| 11:15 | 【24-30】市街地における防火効果に関与する落葉樹の遮蔽力について
○岩崎哲也(兵庫県立淡路景観園芸学校/兵庫県立大学)、手代木純、鳥越昭彦(都市緑化機構)、高橋涼(国土交通省都市局)、奥原一樹(長野県建設部) | 【24-40】Importance of kabuyutan sacred natural sites as biodiversity hotspots in West Java Province, Indonesia
○ダーラン モハド ザイニ、深町加津枝、柴田昌三、今西純一(京都大学) |

ポスター発表 ES館エントランス

9月23日(土) 9:00~18:00 9月24日(日) 9:00~13:00

コアタイム: 23日 11:45~12:30(奇数番号のポスター), 12:30~13:15(偶数番号のポスター)

緑化

- ESE-1 三宅島の火山荒廃地における三日月形治山緑化資材(ToCR)を設置したリルにおける自生草本種の植生回復
○ 榎 春陽(筑波大学)、小川泰浩(森林総合研究所)、上條隆志(筑波大学)、岡部宏秋、石森良房((株)伊豆緑産)
- ESE-2 ミズクラゲチップの木本植物に対する施用効果
○ 全 槿雨、金 錫宇、李 鎔奎(江原大学)、徐 正一(公州大学)、寺本行芳(鹿児島大学)、河野修一、江崎次夫(愛媛大学)、松本淳一、土居幹治(マルトモ株式会社)
- ESE-3 「白砂青松」とクラゲチップ
○ 寺本行芳(鹿児島大学)、江崎次夫、河野修一(愛媛大学)、松本淳一、土居幹治(マルトモ株式会社)、全 槿雨、金 錫宇、李 鎔奎(江原大学)
- ESE-4 山火事跡地の森林再生に及ぼすクラゲチップの効果
○ 全 槿雨、金 錫宇、李 鎔奎(江原大学)、徐 正一(公州大学)、寺本行芳(鹿児島大学)、河野修一、江崎次夫(愛媛大学)、松本淳一、土居幹治(マルトモ株式会社)
- ESE-5 もみ殻灰を活用したセメント改良土の緑化基盤材としての適用性
○ 島本由麻、鈴木哲也、森井俊広(新潟大学)
- ESE-6 石炭灰のリサイクル資材を安定剤として用いた植生基材吹付工の地盤工学的安定性
○ 小林亮太郎、小澤 修(株式会社宮崎測量設計コンサルタント)、多賀谷宏三(高知工業高等専門学校)
- ESE-7 突固め条件を変えたときの人工軽量土壌の物理性評価
○ 屋下下亮、北脇優子、小倉満(大成建設株式会社)
- ESE-8 特性不安に着目したウレタン製土壌改良材混入芝利用時の心理的效果に関する研究
○ 岩崎 寛、曹 丹青、高橋輝昌(千葉大学)、長谷川啓示(アップコン株式会社)
- ESE-9 除草剤を用いたオオイトダリの抑制効果
○ 田崎冬記、渡邊幸一、村中寿孝((株)北開水エココンサルタント)、野口朋毅(国土交通省北海道開発局小樽開発建設部)
- ESE-10 ヤマザクラを用いた荒廃竹林の緑化
○ 河野修一、江崎次夫(愛媛大学)、寺本行芳(鹿児島大学)、松本淳一、土居幹治(マルトモ株式会社)、全 槿雨、金 錫宇、李 鎔奎(江原大学)
- ESE-11 愛媛県今治市大三島町山火事跡地の植生の回復状況—航空実地施工工区域を主体として—
○ 江崎次夫、河野修一(愛媛大学)、寺本行芳(鹿児島大学)、○ 松本淳一、土居幹治(マルトモ株式会社)、全 槿雨、金 錫宇、李 鎔奎(江原大学)、徐 正一(公州大学)
- ESE-12 四国中央部の山腹崩壊地の緑化
○ 河野修一、江崎次夫(愛媛大学)、村上尚哉、稲本亮平、仲原和也(愛媛県東予地方局)、寺本行芳(鹿児島

- 大学)、松本淳一、土居幹治(マルトモ株式会社)、全 槿雨、金 錫宇(江原大学)、徐 正一(公州大学)
- ESE-13 人工林管理放棄が高野山参詣道の破損に与える影響
○ 野村太郎、児玉康宏、寺本東吾、中島敦司(和歌山大学)
- ESE-14 地域性植物材料を活用する「熊本モデル」構想を目指した「阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト」の取り組み
○ 吉原敬嗣(紅大貿易株式会社)、内田泰三(九州産業大学)、入山義久(雪印種苗株式会社)、小野幸菜(東興ジオテック株式会社)、橘 隆一(東京農業大学)、今西純一(京都大学)、中村華子(緑化エラボ)、中島敦司(和歌山大学)
- ESE-15 道路事業における環境保全措置を行う際の効果的な表土保管方法
○ 長浜庸介、大城 温、井上隆司(国土交通省国土技術政策総合研究所)
- ESE-16 オンラインアンケートを用いた高速道路休憩施設の緑地空間に対する利用者の意識調査
○ 牛田圭亮(千葉大学)、大塚芳嵩(千葉大学/農研機構)、石井麻有子、岩崎 寛(千葉大学)
- ESE-17 京葉市川PA(下り線)室内休憩スペースにおける癒し空間の創出について
○ 漆谷綾乃、小笠原秀治、苅部優子(株式会社ネクスコ東日本エンジニアリング)、元木 孝(東日本高速道路株式会社)
- ESE-18 日本における生物多様性を保全するための緑地の認証制度の比較に関する研究
○ 海老原学、森田紘圭(大日本コンサルタント株式会社)
- ESE-19 立山ルート弥陀ヶ原における緑化事業の成果と課題
○ 大宮 徹(富山県農林水産総合技術センター森林研究所)、太田道人(富山市科学博物館)、山下寿之(富山県中央植物園)、松久卓(立山ルート緑化研究委員会)、城賀津樹(立山黒部貫光株式会社)
- ESE-20 切土法面に繁茂するクズに対する植生管理が在来植物と土壌環境変化者に及ぼす作用
○ 西野惇志、前原 裕、早坂大亮(近畿大学)、内田泰三(九州産業大学)
- ESE-21 壁面緑化におけるつる性植物の生育・利用特性について
○ 岡田準人(大阪産業大学)
- ESE-22 寒冷地における在来種による堤防法面緑化試験報告
○ 谷瀬 敦、杉原幸樹、新目竜一(土木研究所寒地土木研究所)
- ESE-23 簡易一面せん断試験機による草本根系の地盤補強効果
○ 池谷真希、吉富隆弘、杉山太宏(東海大学)

- ESE-24 切土のり面散布用ノズルの検討について
○佐藤純平、過 信治(株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北)

都市環境

- ESE-25 Effects of Modern Urbanization to the Green Spaces in Yogyakarta, Indonesia
○Dody Arfiansyah, Nakagoshi Nobukazu (Hiroshima University)
- ESE-26 屋上緑化に用いられるセダム類の葉の形質の違いが蒸発散量に及ぼす影響
○松岡達也、土屋一彬、大黒俊哉(東京大学)
- ESE-27 オフィスの個人デスクに設置した植物への接触が勤務者の心理に与える影響
○鄭 蒙蒙、矢動丸琴子、岩崎 寛(千葉大学)
- ESE-28 緑道における空間構造の多様性が歩行者の回復特性に与える影響
○永田健一朗、土屋一彬、大黒俊哉(東京大学)
- ESE-29 オフィス緑化が勤務者に与える影響に関する研究—業種・職種別による考察—
○矢動丸琴子(千葉大学)、中村 勝(国土緑化株式会社)、岩崎寛(千葉大学)
- ESE-30 都市緑地における自然観察プログラムと健康プログラムの連携実施が参加者の意識や心理に与える影響
○市東実里、古賀和子(千葉大学)、西廣 淳(東邦大学)、岩崎寛(千葉大学)
- ESE-31 ビル風による都市緑化樹の衰退要因の解明
○難波結希、新良貴歩美、石井弘明(神戸大学)
- ESE-32 都市型ビオトープにおける雑草植生を活用した緑化の評価
○中嶋佳貴、沖 陽子(岡山大学)
- ESE-33 公園の利用者を事例とした2種の質問用紙調査の比較検討
○大塚芳嵩(農研機構)、岩崎 寛(千葉大学)
- ESE-34 災害避難所の機能強化策としての都市内緑地の利用と創生
○藤野 毅、スヌワルディペンドラ、氏家知宏(埼玉大学)
- ESE-35 東京湾人工島の造成緑地における生物活動に由来する植栽基盤の変化
○松平隼人、川東正幸(首都大学東京)
- ESE-36 京都市街地における緑地の分布と用途地域に関する研究
○山口史絵、福井 亘(京都府立大学)、高岸 且(株式会社パスコ)
- (玉川大学)、遊川知久(国立科学博物館筑波実験植物園)
- ESE-39 異なる管理様式を持つ半自然草地の植物機能群多様性
○鎌田進悟、早坂大亮(近畿大学)
- ESE-40 地域性種苗の播種量の違いが緑化草地における植被に及ぼす影響
○亀井 碧(和歌山大学)、友田誠也(イビデングリーンテック株式会社)、上野山公基(和歌山県)、川中一博(株式会社タニガキ建工)、井上裕介(株式会社ケイエフ)、吉原敬嗣(紅大貿易株式会社)、湯崎真梨子、中島敦司(和歌山大学)、山田 守(SPTEC・YAMADA)
- ESE-41 根鉢秤量法に基づくヒートレシオ法による樹液流計測のキャリブレーション—シダレモミジ(*Acer palmatum* Thunb.)を対象にして—
○竹内真一、杉尾良隆、篠崎圭太郎、松島大樹(南九州大学)、飯田真一((国研)森林機構森林総合研究所)
- ESE-42 中国半乾燥地固定砂丘上に生育する臭柏(*Savina vulgaris* Ant.)の砂に埋没した地下樹形の構造
○堀内泰貴、亀井 碧、田所 怜(和歌山大学)、須崎史也(クボタ環境サービス株式会社)、張国盛(内蒙古農業大学)、三木直子(岡山大学)、中島敦司(和歌山大学)、吉川 賢(岡山大学)
- ESE-43 埋立地の植栽林における野外播種試験法によるキンラン(*Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume)の種子発芽および2年間の成長の観察
○庄司顕則、伊藤彩乃(株式会社緑生研究所)、赤崎洋哉、松前満宏(株式会社東芝横浜事業所)、山崎 旬(玉川大学)、遊川知久(国立科学博物館筑波実験植物園)
- ESE-44 凍結融解履歴を受けた草本植物の根系を含む細粒土のせん断特性に関する基礎的研究
○川内谷勇真、宋 白楊、中村 大、川口貴之、川尻俊三、山下聡(北見工業大学)
- ESE-45 羅臼湖と富良野岳におけるエゾコザクラの葉緑体ゲノム *trn L* (UAA) 3' exon - *trn F* (GAA) 領域および *atp B* - *rbc L* 領域の遺伝変異
○澤田 円、我妻尚広、岡本吉弘、森 志郎(酪農学園大学)
- ESE-46 塩生植物のハマツナ、ハマサジ、フクドの発芽特性
○長田美保、岡 公平(広島工業大学)
- ESE-47 在来野草の緑化利用を目的とした発芽特性の把握
○武田ゆうこ(国立研究開発法人建築研究所)、舟久保敏(国土交通省国土技術政策総合研究所)、今村史子(日本工営株式会社中央研究所)、森岡千恵(日本工営株式会社社会システム事業部環境部)

植物・植生

- ESE-37 光合成—気孔反応連成モデルのパラメータ推定手法に関する検討
○小島倫直(株式会社竹中工務店技術研究所)
- ESE-38 埋立地の植栽林における野外播種試験法によるクゲヌマラン(*Cephalanthera longifolia* (L.) Frisch)の種子発芽および初期成長の観察
○伊藤彩乃、庄司顕則(株式会社緑生研究所)、赤崎洋哉、松前満宏(株式会社東芝横浜事業所)、山崎 旬
- ESE-48 飛砂の発生抑制に植物体の形状は影響するの
か?
○宮脇真美、劉 佳啓、木村玲二、衣笠利彦(鳥取大学)
- ESE-49 ヤマユリ(*Lilium auratum* Lindley)の生育ステージ推移に伴う乾物生産および分配の変化
○永留真雄、小林達明(千葉大学)

- ESE-50 斜面地におけるコナラ(*Quercus serrata* Murray)の根系分布と引き抜き抵抗力
○山瀬敬太郎、藤堂千景(兵庫県立農林水産技術総合センター)、矢倉資喜(公益財団法人ひょうご環境創造協会)、平野恭弘(名古屋大学)
- ESE-51 都市近郊二次林におけるムラサキシキブ(*Callicarpa japonica* Thunb.)の開花状況とその影響要因
○田端敬三、鈴木雄也、奥村博司、阿部 進(近畿大学)
- ESE-52 三重県中部地域におけるスギ・ヒノキ立木の引き倒し抵抗力
○島田博匡(三重県林業研究所)、野々田稔郎(三重県庁)
- ESE-53 ティーバッグを使った土壌微生物活性の測定
○高橋輝昌(千葉大学)、守野 陣(株式会社バンダイナムコエンターテインメント)、寺田健人(損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社)、土田健人(株式会社ワークスアプリケーションズ)
- ESE-54 福岡県瑞梅寺ダム集水域の森林景観の変化予測
○橋本啓史(名城大学)、太田貴大(長崎大学)、児島利治(岐阜大学)、竹島喜芳(中部大学)
- ESE-55 シカの食害環境下にあるナラ枯れ被害林分の実生の発生とその要因
○長島啓子(京都府立大学)
- ESE-56 岐阜県内の法面緑化施工地におけるニホンジカ被害に関する約5年間の植生モニタリングと被害対策に関する考察
○安江匡弘、佐藤厚太、錦戸 豪(株式会社ニシノ)、山田 守(SPTec・YAMADA)、塚田篤徳(日本特殊緑化協会)
- ESE-57 盛岡城跡の植生景観—樹木管理
○竹原明秀(岩手大学)
- ESE-63 水田管理がナゴヤダルマガエルの越冬場所選択に与える影響
○多田正和、伊藤邦夫、中田和義(岡山大学)
- ESE-64 コウノトリ育む農法水田に生息する水生および陸生動物の安定同位体比の特徴
○塩田圭祐(兵庫県立大学)、田和康太(土木研究所)、丸山勇気((株)建設環境研究所)、佐川志朗(兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園)
- ESE-65 兵庫県円山川汽水域周辺の止水環境における水生動物の多様性分布とコウノトリの採餌利用
○北垣和也、大迫義人、佐川志朗(兵庫県立大学)
- ESE-66 兵庫県豊岡市の水田ビオトープにおける水生動物群集—コウノトリ育む水田との比較—
○泉山真寛、佐川志朗(兵庫県立大学)、田和康太(土木研究所)、丸山勇気(株式会社建設環境研究所)
- ESE-67 圏央道茂原第一トンネル上部の哺乳類による利用
平川颯也、○麻生海斗(明治大学)、細川迭男(東日本高速道路(株))、倉本 宣(明治大学)
- ESE-68 高高度を飛翔するコウモリ調査における計測装置の影響
○見上 伸、高橋雅也、根本玲央((株)日立パワーソリューションズ)、福井 聡、魚崎耕平、西林直哉((一財)日本気象協会)
- ESE-69 嘉瀬川ダム完成前後のダム湖周辺におけるテンの活動場所の変化
○徳田 誠、松田浩輝、吉岡裕哉、安達大貢、明石夏澄(佐賀大学)、荒井秋晴(北九州市)
- ESE-70 兵庫県淡路島における人による管理—イノシシによるタケノコ摂食が竹林再生に及ぼす影響
○小田巻直矢、藤原道郎、大藪崇司、澤田佳宏、山本聡(兵庫県立大学)
- ESE-71 NFI データ活用したニホンジカの分布拡大予測
○村上拓彦、望月翔太、千葉加奈子(新潟大学)
- ESE-72 一斉開花後のチュウゴクザサ(*Sasa veitchii* var. *hirsuta*)群落再生におけるニホンジカの継続的採食圧の排除がもたらす効果
○東口 涼、柴田昌三(京都大学)
- ESE-73 長期モニタリングデータを活用したツキノワグマ出没リスクの評価
○望月翔太、箕口秀夫(新潟大学)
- ESE-74 秋田自動車道錦秋湖 SAにおけるツキノワグマ対策について
○大槻知弘、上村恵也(株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北)、佐藤紀由(株式会社東日本高速道路)
- ESE-75 ニホンザルによる農作物被害発生地域における住民感情に関する空間分析
○上田羊介、望月翔太、村上拓彦(新潟大学)、今村舟(新潟ワイルドライフリサーチ)、山本麻希(長岡技術科学大学)
- ESE-76 Spatial Characteristics of Conflict between Wildlife and Local Human Communities in Kerinci Seblat National Park, Indonesia
○Dian Indah Pratiwi, Nakagoshi Nobukazu (Hiroshima University)

動物

- ESE-58 岩木川の河畔林で営巣するオオタカの採食生態と食物資源
○笠原里恵(弘前大学)、森田知沙(株式会社テクノ中部)、香川裕之(東北緑化環境保全株式会社)、赤坂卓美(帯広畜産大学)、東信行(弘前大学)
- ESE-59 北海道伊茶仁川に生息するアメマスの回遊履歴解析
○鈴木享子(東大院農・学芸大環境教育)、笹栗麻優子、吉富友恭(東大院)、市村政樹(標津サーモン科学館)
- ESE-60 サクラマスの選好性に着目した河川環境の変動把握
○渡邊一哉、大場梢(山形大学)
- ESE-61 流水場と退避場がある環境でのミナミメダカとカダヤシの行動の違い
○湯谷賢太郎(木更津高専)
- ESE-62 PIT タグを用いたトウキョウダルマガエルの雌雄における移動分散の差異
○野田康太郎、守山拓弥(宇都宮大学)、中島直久(東京農工大学)、森 晃(小山市役所)

外来種

- ESE-77 年2回刈り(除草間隔 40 日)によるセイバンモロコシ抑制の可能性
○山根明(西日本技術開発株式会社)、友口勇生、内田泰三(九州産業大学)
- ESE-78 モンゴルにおける有害雑草 *Artemisia adamsii* の発芽生態－発芽の環境依存性と残渣による自己抑制効果－
○衣笠利彦、石橋京子(鳥取大学)
- ESE-79 鳥取砂丘の外来植物オオフトバムグラの発芽特性
○沼田萌、衣笠利彦(鳥取大学)
- ESE-80 種特性からみた外来植物の侵略性評価モデルの作成
○辻 真弥、日置佳之(鳥取大学)
- ESE-81 桜島における導入外来牧草類の変遷と種子繁殖特性
○近藤賢太郎(株式会社オオバ)、内田泰三(九州産業大学)、田中 淳(国土防災技術株式会社)
- ESE-82 ナンキンハゼ (*Triadica sebifera* (L.) Small) の時間的な分布変化と防除シナリオごとの分布確率の推定
○丹羽英之、阿部悠(京都学園大学)
- ESE-83 日本に侵略したヒガタアシ (*Spartina alterniflora*) の故郷を探る
○前原 裕(近畿大学・日本スパルティナ防除ネットワーク)、玉置雅紀(国立環境研究所)、花井隆晃(株式会社テクノ中部・日本スパルティナ防除ネットワーク)、入口友香、西野惇志、早坂大亮(近畿大学)
- ESE-84 河川における特定外来生物(植物)等6種の埋土種子分布及び発芽特性
○山岸裕(国土交通省国土技術政策総合研究所)、畠瀬頼子(自然環境研究センター)、舟久保敏(国土交通省国土技術政策総合研究所)
- ESE-85 石狩浜海浜植物保護地区におけるアズマヒキガエルの効果的な防除
○鈴木あいり、更科美帆、吉田剛司(酪農学園大学)
- ESE-86 環境 DNA によるため池の外来生物分布調査－ミシシippアカミガメにおける適用と PCR 阻害要因の検討
○相馬理央(兵庫県立大学)、源 利文(神戸大学)、土居秀幸(兵庫県立大学)、片野 泉(奈良女子大学)
- ESE-87 河川水辺の国勢調査結果からみた魚類相の特徴と外来魚生息の可能性; 鳴子ダム の事例
○山本和司、佐藤高広、鷺田なぎさ(株式会社建設技術コンサルタント)、岩淵直喜(国土交通省東北地方整備局)
- ESE-88 布目川に生息するチャネルキャットフィシュの食性
○小林誠、廣高空、河内香織(近畿大学)
- ESE-89 水田型湿地におけるアメリカザリガニの潜在的捕食者
○甲斐由香利、西山悠平、西廣 淳(東邦大学)

ポスター発表 減災館減災ホール

9月23日(土) 9:00~18:00 9月24日(日) 9:00~13:00

コアタイム: 23日 11:45~12:30(奇数番号のポスター), 12:30~13:15(偶数番号のポスター)

保全生態

- G-1 貴重かつ身近な環境をどのように保全するのかー唐桑半島の事例から考えるー
○中村華子(緑化エラボ)
- G-2 岩手県の震災復旧工事前後の海浜植物の生育状況と砂浜植生保全対策
○島田直明(岩手県立大学)
- G-3 常陸海浜公園におけるオオウメガサソウの保全に向けてー安定同位体比及びDNA分析を用いた調査ー
○佐々木英代、丸山芳史、加藤賢次(日本工営株式会社)、奈良一秀、本多美佐季(東京大学)、黒澤伸行、奈良憲孝(国土交通省関東地方整備局)
- G-4 香川県有明浜における絶滅危惧種ハマウツボ *Orobanchae coerulescens* の個体群動態
○戎谷 遵、岡 公平(広島工業大学)、小西武利(有明浜の海浜植物を観察する会)
- G-5 三重県河川で確認されたアゼオトギリの生態調査と地域協働による保全
○石井正人((株)建設環境研究所)、赤島義徳(国土交通省三重河川国道事務所)、吉岡俊人(福井県立大学)、平山大輔(三重大学)
- G-6 絶滅危惧種カワヂシャの保全手法: 休耕田を用いたトレンチ法による生育数と生態
○高崎誠、長谷川啓一(株式会社福山コンサルタント)、松本竹吾(株式会社緑生研究所)、八代勝弘(日本測地設計株式会社)
- G-7 キクタンギクの保全再生活動について
○百生太亮、白須友貴、丹羽英之、森本幸裕(京都大学)、佐藤正吾(京都市都市緑化協会)
- G-8 福井県池ヶ原湿原において再生した湿原植生の4年間の植生管理の取り組み
○八木健爾、関岡裕明、坂口奈美(株式会社BO-GA)、國永知裕、松村俊幸(福井県自然保護センター)
- G-9 地域遺産としての湧水湿地の価値ー中津川市岩屋堂における湿地と人々との関係に着目してー
○佐伯いく代(筑波大学)
- G-10 Species diversity and forest structure of logged-over peat swamp forests in Riau, Indonesia
○Prayoto, Nakagoshi Nobukazu (Hiroshima University)
- G-11 河川における鳥類の保全優先エリアを探すー河川水辺の国勢調査を利用した検討ー
○田和康太、森 照貴(土木研究所)、永山滋也(岐阜大学)、片桐浩司(秋田県立秋田中央高等学校)、萱場祐一(土木研究所)
- G-12 利根運河(一級河川)における地域協働による堤防植物の保全活動
○大谷周(国土交通省江戸川河川事務所)

環境修復

- G-13 高濃度火山ガスに対応した緑化工法による自生草本種の植生回復
○小川泰浩(森林総合研究所)、上條隆志(筑波大学)、岡部宏秋、石森良房((株)伊豆緑産)
- G-14 森林復元を目指した緑化地における木本群落の回復過程の評価
○堀田佳那、富松孝次、石井弘明(神戸大学)
- G-15 津波被災地に造成された「千年希望の丘」広葉樹植栽地の植栽基盤特性と植栽木の初期成長について
○佐野哲也(東北工業大学)、八島慎吾(藤井産業株式会社)、渡辺康太(共同ネットワーク)、五十嵐賢也、佐藤大基、市沢らな(東北工業大学)
- G-16 津波被災地に造成された「千年希望の丘」広葉樹植栽地における土壌微生物活性評価手法の検討
○市沢らな、佐野哲也(東北工業大学)
- G-17 アーマーコート化の解消によるアユの生息環境の再生実験ーⅢ. 一次生産者の応答ー
○内田朝子、山本敏哉、白金晶子(豊田市矢作川研究所)、今泉久祥(一般社団法人伊勢志摩海学会)
- G-18 アーマーコート化の解消によるアユの生息環境の再生実験ーⅡ. 実験区画でのアユの定着状況ー
○山本敏哉、内田朝子、白金晶子(豊田市矢作川研究所)
- G-19 アーマーコート化の解消によるアユの生息環境の再生実験 I. 実験の概要と物理環境・蘚類について
○白金晶子、山本敏哉、内田朝子(豊田市矢作川研究所)
- G-20 神流川における掘削路開削による洪水攪乱の誘発と礫河原再生
○久保田七海、丹野幸太(アジア航測株式会社)、近藤誠、千葉拓(国土交通省高崎河川国道事務所)
- G-21 一級河川と農業用排水路との接続点における落差解消とその評価
○上野公彦(岐阜県美濃土木事務所)、米倉竜次(岐阜県水産研究所)

生息場・生育地評価

- G-22 徳島県鳴門市南部の水田地帯におけるコウノトリの餌生物量評価
○安達直之、山城明日香、河口洋一(徳島大学)、佐川志朗(兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園)
- G-23 四国におけるコウノトリの生息適地推定
○角屋亮、藪原佑樹、河口洋一(徳島大学)、大迫義人、江崎保男(兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園)
- G-24 ナベヅルの越冬を可能にする水田・畦畔の景観構造
○岩佐愛恵、今井洋太、鎌田磨人(徳島大学)
- G-25 取水堰可動ゲートの開閉時間数がアユ遡上数の年変動に及ぼす影響
○辻雄介(美和環境コンサルタント(株))

- G-26 ハリヨ生息環境を支える養老山麓津屋川湧水群を中心とした水環境の現状と課題
○吉川慎平、鷺見哲也(大同大学)
- G-27 農業用水路網における外来種の分布傾向
○満尾世志人、油田照秋(新潟大学)
- G-28 石礫の露出高とアユの体サイズとの関連
○小野田幸生、萱場祐一(土木研究所)、堀田大貴(株式会社建設技術研究所)
- G-29 広島県芦田川水系の農業水路におけるスイゲンゼニタナゴの選好環境
○成 成南、竹内和也、中田和義(岡山大学)、竹下邦明(復健調査設計株式会社)
- G-30 千葉県北部の小河川におけるスナヤツメの生息環境
○平野佑奈、木寺法子、西廣淳(東邦大学)
- G-31 ネコギギの繁殖環境の特徴と野外における整備手法の検討
○大杉奉功、藤澤貴弘(水源地環境センター)、小澤英樹(いであ株式会社)、時耕清志、川村昭彦(国交省設案ダム工事事務所)
- G-32 河川踏査データを用いたネコギギの生息適地解析と整備手法の評価
○藤澤貴弘、大杉奉功(一般財団法人水源地環境センター)、小澤英樹(いであ株式会社)、時耕清志、川村昭彦(国土交通省設案ダム工事事務所)
- G-33 階層的な空間スケールを明示化した河川性魚類の種分布モデリング
○片岡大河、吉村千洋(東京工業大学)、梁政寛(ベルリン自由大学)
- G-34 環境要因が河川性魚類に与える影響の評価ー菊池川水系扇状地部を対象にー
○秋庭広大、鬼倉徳雄、佐藤辰郎(九州大学)
- G-35 コウノトリ野生復帰地の異なる水田農法地帯におけるカエル類の生息状況比較
○藪下拓斗、佐川志朗、内藤和明(兵庫県立大学)
- G-36 それって温暖化と関係あるの？クマゼミの分布北上を生息適地解析から検討する
○斎藤昌幸(山形大学)、倉島治、伊藤元己(東京大学)
- G-37 生息適地解析を用いた生息環境整備の検討：流水性トンボ類アオサナエの事例
○井上太樹、野寄弘道(日本工営株式会社)、舘井恵、井上博文(国土交通省四国地方整備局)

環境 DNA

- G-38 環境 DNA を用いた球磨川荒瀬ダム撤去後のアユ生息場評価
○児玉紗友里、皆川朋子(熊本大学)、土居秀幸(兵庫県立大学)
- G-39 環境 DNA を活用したアユ生息量モデルの構築とこれを用いた過去の生息場評価ー三面川におけるアユ生息場再生にむけてー
○秋山秀樹、皆川朋子(熊本大学)
- G-40 実河川における環境 DNA の影響範囲の検討ーアユを用いた野外実験ー
○山口皓平、赤松良久、後藤益滋、乾隆帝、小室隆(山口大学)

- G-41 河川における魚類調査法としての環境 DNA メタバーコーディングの有効性の検証ー西日本の複数河川を対象にー
○乾 隆帝(山口大学)、土居秀幸(兵庫県立大学)、赤松良久、後藤益滋(山口大学)、松岡俊将(兵庫県立大学)、佐藤博俊、山中裕樹(龍谷大学)
- G-42 環境 DNA メタバーコーディング解析を用いた福岡県糸島半島2河川の魚類構成の比較
○清野聡子、會津光博、井鍋祐介(九州大学)、佐土哲也、宮正樹(千葉県立中央博物館)
- G-43 環境 DNA 分析の環境アセスメントへの適用実証：魚類メタバーコーディングによる魚類相調査の可能性と課題
○長谷川啓一、古澤輝雄(株式会社福山コンサルタント)、中野江一郎(株式会社生物技研)
- G-44 氾濫原生態系保全に向けた環境 DNA 法を用いたヌマガイ生息場・生息量の評価に関する研究
○川浪健太郎、皆川朋子(熊本大学)、土居秀幸(兵庫県立大学)
- G-45 佐波川、高津川におけるオオカナダモの被度と環境 DNA 量との関係性
○赤松良久(山口大学)、土居秀幸(兵庫県立大学)、○後藤益滋、小室隆、乾隆帝(山口大学)、永野真理子(兵庫県立大学)、源利文(神戸大学)
- G-46 河川での外来沈水植物オオカナダモの環境 DNA 分析ー太田川での例ー
○田中克幸、加藤康充、宮脇成生、島村彰((株)建設環境研究所)、土居秀幸(兵庫県立大学)
- G-47 効率的な環境 DNA 採取のための適切な環境試料の検討
○山野俊介、渡辺幸三(愛媛大学)
- G-48 河川事業への展開を視野に入れた環境DNAサンプリング技術に関する実験的検討
○鈴木宏幸、村岡敬子、萱場祐一(国立研究開発法人土木研究所)

水質

- G-49 庄内川下流域における塩水遡上に伴う水質現象の実態把握について
○五十嵐美穂、福田悠太、秋田麗子、金海生(日本工営株式会社)
- G-50 河川・湖沼における自動採水ドローンの開発と実用性の検証
○赤松良久(山口大学)、渡辺豊(ルーチェサーチ株式会社)、土居秀幸(兵庫県立大学)、平坂直行(ルーチェサーチ株式会社)、○小室隆、後藤 益滋、乾 隆帝(山口大学)
- G-51 有機物汚濁が著しい河川における植物プランクトンの種組成と季節変化について
○森貞里咲、山田佳裕(香川大学)
- G-52 ダム下流における濁水流下過程について
○本山健士、中西哲、岩田幸治、石神孝之(国立研究開発法人土木研究所)
- G-53 国土調査としての「地下水の見える化調査」(地下水情報図等の整備)についてー地下水を、分かりやすく・親しみやすく「見せる」「魅せる」とりくみー

- 浅井樹、宮原智哉、小川豪司、青山夏海(アジア航測株式会社)、渡部元(国土交通省国土政策局)
- G-54 農業地域における土地利用の多様性と河川水質との関係
○山崎由理(岩手大学)、宗岡寿美、木村賢人、辻修(帯広畜産大学)
- G-55 タイダル方式による水質浄化の可能性と課題
○松下太郎、渡辺敏(株式会社ウエスコ)、山橋正明、松原啓充(豊中市都市基盤部)、笹井隆秀(神戸市須磨海浜水族園)

河川環境

- G-56 旧迫川周辺の河跡湖群における湖岸地形と湖畔林の特徴
○池田潤(流砂系クラブ)
- G-57 改良芝を活用した河川堤防法面の小動物被害の抑制・植生管理に関する検討
○宮島泰志、和泉大作、鈴木太郎(株式会社建設技術研究所)
- G-58 「芝焼き」による荒川下流部の堤防植生管理の考察～荒川下流堤防での「芝焼き」再開に向けた取り組みの紹介～
○大宮裕樹、丸山勇氣、叶正興、富田邦裕(株式会社建設環境研究所)、中須賀淳、池部憲次、中村幸一、野口秀明(国土交通省荒川下流河川事務所)
- G-59 自然公園内の崩壊地における無種子厚層基材吹付施工5年間の植生変遷
○柴田閑、澤樹征司、鈴木大輔(株式会社建設技術研究所)、石田哲也、浅野未来(国土交通省松本砂防事務所)
- G-60 上越地域の小河川に生息するカマキリ(*Cottus kazika*)の回遊と生息場に関する基礎研究
○高榮晋平、鈴木享子、吉富友恭(東京学芸大学)
- G-61 森林攪乱が源流の河川環境およびミネトワダカワゲラ個体群に及ぼす影響～森林伐採と斜面崩壊の履歴に対する応答の比較
○大平 充(神奈川県自然環境保全センター)、渡邊祐介(玉野総合コンサルタント株式会社)、五味高志(東京農工大学)
- G-62 カヌースラロームコースの整備が水生昆虫に与える影響
○岩田祥子、田代喬(名古屋大学)、浦部美佐子(滋賀県立大学)
- G-63 河道に倒入したマダケの水生昆虫による利用
○宮崎航介、河内香織(近畿大学)
- G-64 国内河川における攪乱レジームが底生動物の多様性に及ぼす影響
○渡辺裕也、三宅洋(愛媛大学)、吉村研人(水資源機構)、赤坂卓美(帯広畜産大学)、森照貴(東京大学)
- G-65 超音波発信機により明らかになった美利河ダム湛水域に流入したサクラマス魚の行動
○布川雅典、柏谷和久、谷瀬敦、新目竜一(寒地土木研究所)、山本裕之(北海道開発局)
- G-66 ダム下流河川への土砂還元の影響～二瀬ダムの事例～
○加藤康充、関根洋、益岡卓史((株)建設環境研究所)

- G-67 再開発ダム完成前後のダム下流生態系における物質循環の比較
○菊地亮太、東信行(弘前大学)
- G-68 空撮画像を用いた表層河床材料の平均粒径分布の推定
○東善広、水野敏明(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)、北井剛(滋賀県立琵琶湖博物館)
- G-69 自然共生型流域圏形成のための基礎的研究～1級河川高梁川を事例として
○原孝史、伊東啓太郎(九州工業大学)
- G-70 簡易音響測深機を用いた河川地形測定の適用可能性について
○中西哲、本山健士、岩田幸治、石神孝之(土木研究所)
- G-71 Model-based assessment of urban water management strategies for a dimictic lake
○Robert Ladwig (IGB, Technical University Berlin), Elena Matta (Technical University Berlin), Georgiy Kirillin (IGB), Eiichi Furusato (Saitama Univ.), Reinhard Hinkelmann (Technical University Berlin), Michael Hupfer (IGB)
- G-72 子供にとって魅力的な生物に着目した都市河川の親水性評価
○三宅洋、目崎文崇、泉哲平(愛媛大学)

海岸・海域・汽水域

- G-73 淀川汽水域におけるヨシの光合成速度の現地実験と炭素固定機能の解明に向けた生長動態解析
○安原汰唯我、大谷壮介(大阪府立大学工業高等専門学校)
- G-74 鵜殿に生育するヨシ(*Phragmites australis* (Cav.) Trin.)の生長特性に関する中間報告
○繁富 剛(西日本高速道路株)、西牟田和沙(株)高速道路総合技術研究所、宮田文徳(西日本高速道路エンジニアリング関西株)
- G-75 UAVによる写真測量を用いた干潟微地形変化
○伊豫岡宏樹(福岡大学)、小山彰彦、鬼倉徳雄(九州大学)、乾隆帝(山口大学)
- G-76 河口干潟の生物相の変遷～球磨川河口域における5年間のモニタリングを例として～
○小山彰彦(九州大学)、乾隆帝(山口大学)、鬼倉徳雄(九州大学)
- G-77 河口域におけるアカテガニ類幼生期の生息環境
○村上隆也、柳井清治(石川県立大学)
- G-78 海底地形がアマモ場の形成に与える影響
○池田航助、水町泰貴(和歌山大学)、大南真緒(和歌山県工業技術センター)、中島敦司(和歌山大学)
- G-79 静岡県遠州灘海岸林におけるマツ枯れ後の立地環境が植生の遷移に及ぼす影響
○宮浦徹(東興ジオテック株式会社)、吉崎真司(東京都市大学)
- G-80 仙台平野の津波被災海岸林における土壌攪乱強度とカワラナデシコの生育密度の関係
○大澤啓志(日本大学)、内野沙織((有)大陽)

- G-81 万葉集および勅撰和歌集にみる松の詠まれた立地の変遷
○七海絵里香(株式会社愛植物設計事務所)、大澤啓志(日本大学)
- G-82 愛知県田原市西ノ浜海岸林におけるクロマツの根系掘削および周辺地下水位調査の事例
○田中 淳、中澤 洋、佐藤威臣(国土防災技術株式会社)
- G-83 生育環境の違いが潮上帯のハマボウ(*Hibiscus hamabo* Siebol det Zucc.)稚樹の樹形に与える影響
○白井史昌、清長孝成、池田航助、中島敦司(和歌山大学)
- G-84 湘南海岸における砂防柵の設置による微地形と風環境の変化が飛砂害に及ぼす影響
○吉崎真司(東京都市大学)、長嶋大輔(株式会社オリエンタルコンサルタンツ)、清水亜里沙(武蔵工業大学(現:主婦))
- G-85 日本産在来海浜植物の地域性評価および発芽特性
○津田その子、守谷栄樹(中部電力株式会社)、小林聡、富田基史、阿部聖哉、松木吏弓(電力中央研究所)
- G-86 房総半島沿岸域におけるUAV-SfMを用いた海浜植物の生体構造の把握
○中田 康隆、小口 高、早川 裕弐(東京大学)
- G-94 文化的サービスとしての海の景観利用
○松葉史紗子、山北剛久(海洋研究開発機構)
- G-95 宮城県岩沼市の津波被災海岸林におけるカワラナデシコの生育量の変動
○七海絵里香(株式会社愛植物設計事務所)、大澤啓志(日本大学)

物質循環

- G-87 林床における落葉分解に伴う放射性セシウムの吸着様式の変化
○斎藤 翔、小林達明、高橋輝晶(千葉大学)
- G-88 都市化による土壌の化学性の変化が植物体の無機化特性に与える影響
○人見拓哉、高橋輝昌(千葉大学)
- G-89 釧路川流域における有機炭素流出予測にむけた基礎的検討
○佐藤辰哉、笠間基(北見工業大学)、出島広大(阿寒共立土建株式会社)、丸谷靖幸(岐阜大学)、駒井克昭(北見工業大学)
- G-90 溪流における河川間隙水域の有機物貯留機能と貯留量の季節変動
○久保朋也、笠原玉青、大槻恭一、智和正明(九州大学)
- G-91 大阪湾湾奥の過栄養域の二酸化炭素フラックスと水質の関係
○大谷壮介、井元大樹(大阪府大高専)、鴨狩諒、上月康則(徳島大学)

生態系サービス

- G-92 史跡地樹叢の土壌浸透能
○寺本行芳(鹿児島大学)、江崎次夫、河野修一(愛媛大学)、松本淳一、土居幹治(マルトモ株式会社)、全 権雨、金 錫宇(江原大山)
- G-93 棚田地形が土砂崩落の軽減に与える影響
○中島敦司、中野慎二(和歌山大学)、Ganeindran Rainoo Raj(栗田工業株式会社)、水町泰貴(和歌山大学)

ポスター発表 ES 館会議室

9 月 23 日 (土) 9:00~18:00 9 月 24 日 (日) 9:00~13:00

コアタイム: 23 日 11:45~12:30 (奇数番号のポスター), 12:30~13:15 (偶数番号のポスター)

グリーンインフラ

- ESC-1 都市の生物多様性保全における小学校プールの役割
○古野正章、古野宏明、友口友生、小林大祐、内田泰三(九州産業大学)、早坂大亮(近畿大学)
- ESC-2 グリーンインフラ形成に向けた樹冠遮断の評価
○平野亮将、米村惣太郎、渡部陽介(清水建設株式会社)
- ESC-3 雨庭の降雨流出特性の定量的評価
山田駿介(住友林業株式会社)、○柴田昌三(京都大学)
- ESC-4 欧州における雨庭デザインの動向報告
○阿野晃秀(京都学園大学)
- ESC-5 歴史都市の「グリーンインフラ」-金沢市の用水網が有する多様な生態系サービス
○飯田義彦(国連大学サステナビリティ高等研究所)
- ESC-6 住宅地の空き地のグリーンインフラストラクチャーに向けた機能評価
○高橋栞、西廣淳(東邦大学)、徳江義宏、今村史子(日本工営株式会社)、上野裕介(石川県立大学)
- ESC-7 浸水想定区域内の法的土地利用区分に基づく地域類型 - 農地が持つ洪水調節機能を活かせるか? -
○今井洋太、鎌田磨人(徳島大学)
- ESC-8 Eco-DRR の視点から見た複合災害下の都市土地利用評価 - 熊本県を事例として -
○唐明暉、藤田直子、枝尾亜斗夢(九州大学)
- ESC-9 グリーンインフラによる持続可能な地域づくりに関する可能性調査: 金沢市の防災・環境・社会経済の統合に向けて
○小島葉月、上野祐介(石川県立大学)、長谷川啓一(株式会社福山コンサルタント)

ランドスケープ・計画

- ESC-10 生態学的な空間評価と流域ビオトープネットワーク計画に関する研究 - 福岡県遠賀川流域を対象として -
○瀨崎壮史、伊東啓太郎、掲野慎一郎(九州工業大学)
- ESC-11 小型 UAV を用いた大山隠岐国立公園鏡ヶ成湿原の自然再生計画図の作成
○山田諒、日置佳之(鳥取大学)
- ESC-12 Dynamics of wetland landscape in the Tumen river basin of China from 1960 to 2009
○XiaoJun Zheng (Nagoya University), Peng Sun (Zhengzhou University), Weihong Zhu (Yanbian University), Jing Fu (Chinese Academy of Fishery Sciences), Zhen Xu ((Yanbian University)
- ESC-13 ドローン(小型無人機)を活用した山火事跡地の再生状況の把握
江崎次夫、河野修一(愛媛大学)、鳥生貴英、○光田明徳、栗林修平、黒光達彦(愛媛県東予地方局今治支局)、福見勇次郎、渡部昭裕、亀田幸徳、寺岡平和、松

尾由布旗(愛媛県東予地方局)、全権雨、金 錫宇、李 鎔奎(江原大山)

- ESC-14 景観植物の利用と生物多様性の保全
○山本聡(兵庫県立淡路景観園芸学校)
- ESC-15 小面積化に対する林床性シダ植物の反応 名古屋市、大阪北部、京都市のデータから
○村上健太郎(名古屋産業大学)、森本幸裕(京都学園大学)
- ESC-16 被災景観域における森林パッチ消失が連結性を与える影響度の定量的解析
○平山英毅、富田瑞樹、原慶太郎(東京情報大学)
- ESC-17 緑化シンボルとしての「市区町村の花・木」選定種の全国調査結果と GIS による空間的可視化の試行から
○吉川慎平(自由学園)、渡辺俊太郎(京都大学)
- ESC-18 北アルプス雲ノ平における地理空間情報技術を援用した植生復元事業について
○下嶋 聖(東京農業大学)、伊藤二郎(三俣山荘事務所雲ノ平山荘)
- ESC-19 熊本地震被災地におけるランドスケープに関する研究 - 復興計画に基づく景観変化の解析 -
○枝尾亜斗夢、藤田直子、唐明暉(九州大学)
- ESC-20 長崎県対馬における群倉の分布実態に関する研究
○小林秀輝、藤田直子(九州大学)
- ESC-21 生態学的視点及びシークエンス景観に基づいた緑道の設計に関する研究 - 北九州市原町緑道を対象として -
○稲田太一、伊東啓太郎(九州工業大学)
- ESC-22 直接的自然体験の場としての都市公園の設計手法に関する研究 - 空間特性と利用者行動に基づくデザイン提案 -
○古閑丈瑛、伊東啓太郎(九州工業大学)
- ESC-23 生物多様性保全を目的としたエコロジカル・ネットワーク計画に関する研究 - 北九州市山田緑地周辺を対象として -
○小池拓也、伊東啓太郎(九州工業大学)、安田陽名子(三井共同建設コンサルタント株式会社)、鬼武伸男(北九州市役所)
- ESC-24 廈門市における都市緑化空間と繁殖期の鳥相との関係について
○福井 亘(京都府立大学)
- ESC-25 阿蘇地方における植生を加味した斜面崩壊確率モデルの構築とリスク評価
○上杉幸輔、天本昌吾、皆川朋子(熊本大学)

モニタリング

- ESC-26 湿地環境の水文モニタリング・評価手法
○藤村善安、山本芳樹(日本工営(株))
- ESC-27 農地切り下げ面に再生した湿地植生のポールカメラによるモニタリング

○森本淳子、畔柳晶仁(北海道大学)、ト部覚(ウラベ科学(株))、鈴木玲(ひと自然つながり工房)、木村浩二、三輪哲哉(雪印種苗(株))、志田祐一郎((株)野生生物総合研究所)、岡孝雄(アースサイエンス(株))

■ESC-28 自動撮影全周魚眼カメラを用いたトンボ類の遠隔モニタリング

○山田浩之、安部晋吾(北海道大学)、上田紘司、嶋田哲郎(公益財団法人宮城県伊豆沼)

■ESC-29 全周魚眼スマートフォンカメラを用いた水生生物の遠隔モニタリング

○藤本泰文、嶋田哲郎(公益財団法人宮城県伊豆沼)、山田浩之(北海道大学)

■ESC-30 Google の地理空間情報を用いた竹林の健康診断の可能性

○河合洋人(NPO 法人竹人)

環境マネジメント・協働・CSR

■ESC-31 市民参加による持続可能な松林整備手法に関する研究ー福岡市福津市の海岸松林を対象としてー

○柳田壮真、伊東啓太郎(九州工業大学)

■ESC-32 環境 CSR としての植樹活動による森林管理方策の構築と評価ー茨城県常陸大宮市ビジョン美和の森を対象としてー

○中尾宏、原慶太郎(東京情報大学)、下嶋聖、鈴木伸一(東京農業大学)

■ESC-33 地域資源としての里山環境の活用を目的とした環境マネジメントに関する研究ー福岡県福津市を対象としてー

○長谷川逸人、伊東啓太郎、古橋範明(九州工業大学)

■ESC-34 Research of urban ecosystem services for conservation management of nature environment in Myanmar: the case study in Yangon

○Shwe Yee Lin, Keitaro Ito, Tomomi Sudo, Yurie Hanada, Takahiro Nakamatsu, Oda Yusuke (Kyushu Institute of Technology)

■ESC-35 地域環境保全を目的とした協働のしくみづくりと実践に関する研究ー福津市環境基本計画及び生物多様性戦略策定プロセスを通してー

○池尻絵美、伊東啓太郎(九州工業大学大)、新堀輝雄、花田菅江(福津市役所)

■ESC-36 兵庫県淡路島における自然環境の多機能性を活かした地域づくりに関する研究

○藤原道郎、澤田佳宏、豊田正博(淡路景観園芸学校／兵庫県立大学)

環境学習

■ESC-37 景観の変化を市民に伝える方法 徒歩

○真鍋徹、御前明洋、中西義昌、富岡優子(北九州自歴博)、須藤朋美、伊東啓太郎(九州工大)

■ESC-38 タブレット端末を利用した植物学習と樹木管理のためのサクラ属のデータベース(CerasusDB)の開発

○中村彰宏(大阪府立大学)、守村敦郎(人間環境大学)

■ESC-39 「団地で叶える”農で繋がる暮らし”」の実現に向けた利用者分析と農園デザイン

○馬晨、三輪柚佳里、倉田将幸、藤田直子(九州大学)

■ESC-40 参加体験型農園の効果に関する研究ー福岡市有住校区室住団地での農園開設における食育と園芸福祉の可能性ー

○倉田将幸、藤田直子、馬晨(九州大学)

■ESC-41 小規模湿原における環境学習施設の計画手法の検討

○常葉耕平、日置佳之(鳥取大学)

■ESC-42 AR 技術と3D 模型を用いた河川流域環境に関する教育ツールの開発

○河野誉仁、赤松良久、乾 隆帝(山口大学)、神谷大介(琉球大学)、高田一樹(サイバネットシステム株式会社)

■ESC-43 里浜復興・まちづくりにおける「地域の自然・歴史景観マップ」作成活動とその意義

○平吹喜彦、菊池慶子(東北学院大学)、遠藤源一郎、赤谷加奈(いきものパレット)、新浜町内会

■ESC-44 「いしかわ自然学校」における自然体験活動と移住者の役割

○加藤かすみ、深町加津枝(京都大学)

■ESC-45 幼児期の自然体験の充実を目的とした環境マネジメント及び身近な自然の活用手法に関する研究

○須藤朋美、伊東啓太郎(九州工業大学)、山下太郎、山下育子(北白川学園北白川幼稚園)、沖川美司子(北九州市福祉事業団沢見あやめのもり保育所)

■ESC-46 音の多様性が子どもの遊び行動に及ぼす影響ー小学校ピオトープにてー

○飯川裕基、伊東啓太郎、古閑文瑛(九州工業大学)

■ESC-47 身近な自然環境を活用した子どものあそびと育ちを促す実践と検証ー子どもの伴走者である大人の認知変容と行動変化についてー

○秋葉祐三子、伊東啓太郎、須藤朋美(九州工業大学)、川本卓史(株式会社オリエンタルコンサルタンツ)

■ESC-48 環境学習ワークショップを通じた身近な自然環境の活用に関する研究

○鮎川奈津子、伊東啓太郎、馬場成輝、山本将由(九州工業大学)、池田敬一、野見山千寿代(芦屋東小学校)

■ESC-49 参加型展示計画ワークショップのデザインに関する実践的検討ー樋井川流域活動の情報発信拠点づくりを事例としてー

○吉富友恭、増田由起(東京学芸大)

ELR2017

日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会 3 学会合同大会 ELR 2017 NAGOYA ICLEE 8th Conference

2017 年 9 月 22 日 (金)～25 日 (月)
名古屋大学 (名古屋市千種区不老町)

日程

- 9 月 22 日 (金) 各学会委員会等, 研究集会
- 9 月 23 日 (土) 研究発表 (口頭, ポスター (掲示・コアタイム)), 企業展示, 研究集会, 国際シンポジウム, ICLEE 第 8 回大会, 懇親会
- 9 月 24 日 (日) 研究発表 (口頭, ポスター (掲示のみ)), 企業展示, 各学会総会, 公開シンポジウム
- 9 月 25 日 (月) エクスカーション

International symposium

『Landscape and Green Infrastructure, a key to sustainability』

Date: 23 September 2017, 15:45 ~ 17:45
Venue: Sakata-Hirata Hall, Nagoya University

Program:

Green infrastructure and ecosystem services in urban landscapes

Jack AHERN

Professor of University of Massachusetts, USA

Functional landscapes in cities

Erik ANDERSSON

Associate Professor of Stockholm Resilience Centre, Sweden

Ecology of Urban Environment

Kirsten PARRIS

Associate Professor of The University of Melbourne

会場: 名古屋大学 東山キャンパス
地下鉄名城線
「名古屋大学駅」下車すぐ

問い合わせ先: elr2017office@gmail.com
052-789-4887
(名古屋大学夏原研究室)

※シンポジウムには会員外の一般の参加 (無料) もできます

ELR2017 公開シンポジウム

『自然の仕組みを暮らしに賢く活かす—グリーンインフラへの招待』

日時: 2017 年 9 月 24 日 (日) 14:30 ~ 17:00
会場: 名古屋大学豊田講堂

プログラム:

1. 挨拶
夏原由博 (ELR2017 実行委員長 / 日本景観生態学会会長)
/ 名古屋大学大学院 環境学研究科 教授
2. なぜ身近な自然は失われるのか?—自然再生の新たな方法論を構築する
三橋弘宗 (応用生態工学会) / 兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員
3. 生態系・風土を活かすランドスケープデザインと地域づくり
伊東啓太郎 (日本景観生態学会) / 国立大学法人九州工業大学大学院 教授
4. 都市の中のグリーンインフラ
木田幸男 (日本緑化工学会) / 東邦レオ株式会社 専務取締役
5. グリーンインフラ推進に向けた官民連携
西田貴明 (グリーンインフラ研究会)
/ 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング (株) 新事業開発室 副主任研究員
6. 総合討論
進行: 鎌田磨人 (日本景観生態学会)
/ 徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 教授

主催: ELR2017 実行委員会

共催: グリーンインフラ研究会、名古屋大学大学院環境学研究科 後援: 名古屋市



応用生態工学会 Ecology and Civil Engineering Society



日本景観生態学会 Japan Association for Landscape Ecology



日本緑化工学会 The Japanese Society of Revegetation Technology

4 次期役員募集・推薦委員会報告

次期役員募集・推薦委員会

委員長：辻本哲郎会長

委員：近藤 徹元会長
谷田一三前会長

今年度は役員改選年にあたり、本年 6 月 1 日から 6 月 30 日までの期間で、次期役員候補の募集を行いました。この結果、募集期間内に会長候補 1 名、副会長候補 3 名、理事候補 13 名、監事候補 2 名の計 19 名の届出がありました。これを受けて、7 月 6 日に第 2 回次期役員募集・推薦委員会を開催し、届出のあった 19 名全員を候補として受け付けることを決定しました。

また、理事候補については、届出者が 13 名であったため、定数上限 15 名との差 2 名について、第 3 回委員会（7 月 25～27 日メール会議）を開催し、候補者 2 名を推薦しました。

以上により、本年 9 月 24 日に開催される第 21 回総会での選出に諮る次期役員の候補者が次のとおり決まりましたので、ご報告します。

+++++

〔次期会長候補：1 名〕（敬称略）

江崎 保男（新任） 兵庫県立大学大学院教授

〔次期副会長候補：3 名〕（再任・新任の順、五十音順、敬称略）

國井 秀伸（再任） 島根大学エスチュアリー研究センター客員教授

浅枝 隆（新任） 埼玉大学大学院教授

久保田 勝（新任） 東北電力株式会社顧問

〔次期理事候補：15 名〕（再任・新任の順、五十音順、敬称略）

大森 浩二（再任） 愛媛大学教授

萱場 祐一（再任） 国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム上席研究員

森北 佳昭（再任） 一般財団法人水源地環境センター理事長

山室 真澄（再任） 東京大学大学院教授

浅見 和弘（新任） 応用地質株式会社技術本部技師長室技師長

池内 幸司（新任） 東京大学大学院教授

占部城太郎（新任） 東北大学大学院教授

島谷 幸宏（新任） 九州大学大学院教授

杉尾 哲（新任） 宮崎大学名誉教授

高村 典子（新任） 国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センターフェロー

中村 太士（新任） 北海道大学大学院教授

西 浩司（新任） いであ株式会社国土環境研究所環境計画部主任研究員

藤田 乾一（新任） 株式会社大林組土木本部顧問

武藤 裕則（新任） 徳島大学大学院教授

山根 伸之（新任） 株式会社建設技術研究所東京本社次長

〔次期監事候補：2 名〕（五十音順、敬称略）

成田 賢（新任） 応用地質株式会社代表取締役社長

渡辺 綱男（新任） 一般財団法人自然環境研究センター上級研究員

5 2017 年度海外学会等への派遣者の選考結果報告

国際交流委員会

国際交流委員会では、2017 年度海外学会等への派遣員の募集を行った。3 月 31 日を応募期限として学会ホームページ、ニュースレター、メーリングリストによる募集を行った。

応募期限内に応募がなかったため、4 月 30 日まで追加募集を行った結果、4 名の研究者（大学院生を含む。）から応募があった。

5 月に開催した国際交流委員会において、応募者 4 名の応募内容を規定の審査基準で審査した結果、派遣者 1 名を選考した。

2017 年度海外学会等への派遣者

氏名：藪原佑樹（徳島大学 社会産業理工学研究部 研究員）

派遣先：Conference on Wind energy and Wildlife impacts (CWW2017)(ポルトガル, エストリル)

学会開催日：2017 年 9 月 6 ～ 8 日

助成額：20 万円

6 地域研究会「応用生態工学会岡山」が設立されました

岡山地域においては、2012 年（平成 24 年）から地域研究会の設立準備が進められてきた。この間、昨年 12 月 17 日には、岡山地域における第 1 回の地域勉強会として「水辺環境保全への対策・工夫と今後の展開」が岡山大学環境理工学部において 67 名の参加のもとに開催された。

また、普及・連携委員会においては、本年 1 月 10～21 日に開催した委員会（メール会議）において、地域研究会「応用生態工学会岡山」の設立について理事会に諮ることが承認された。

これらを受けて、本年 6 月 29 日に開催された第 87 回理事会において、学会として 15 番目となる地域研究会である「応用生態工学会岡山」を設置することが承認された。

地域研究会の名称：応用生態工学会岡山

連絡責任者：藤谷俊仁（株式会社建設環境研究所岡山事務所、学会普及・連携委員）

7 行事開催案内

7.1 応用生態工学会大阪 第3回ミュージアム連携ワークショップ in 岸和田 開催案内

応用生態工学会大阪

（1）趣旨

博物館や水族館の専門家、干潟を守る現場の技術者とともに、大阪湾の人工干潟を再生するためには何をどうすればよいのかを考えるワークショップを開催します。皆さまのご参加をお待ちしております。

（2）開催内容

日時：平成 29 年 9 月 2 日（土）10：00～18：00

場所：岸和田阪南 2 区人工干潟（現地）、きしわだ自然資料館（室内）（大阪府岸和田市）

スケジュール

- | | |
|-------------|-----------------------------------|
| 10：00～12：00 | 現地見学 阪南 2 区人工干潟 |
| 12：30～13：00 | 干潟で採取した生物の顕微鏡観察（きしわだ自然資料館） |
| 13：00～15：00 | ワークショップ 人工干潟の今後の整備のあり方（きしわだ自然資料館） |
| 15：00～18：00 | 懇親会 干潟から育った魚介類を食べる（岸和田鰯巾着漁協） |

（3）参加費

現地見学：2,000 円

きしわだ自然資料館への入場料：200 円

魚介類を食べる懇親会：5,000 円

(4) 申し込み方法

下記事項を明記のうえ、E-mail でお送りください。

- ・氏名、所属
- ・連絡先（電話・E-mail）
- ・参加内容（午前のみ・午後のみ・両方参加・懇親会参加）

(5) 問い合わせ先

ミュージアム連携ワークショップ in 岸和田事務局 応用生態工学会大阪 代表 渡辺敏
(株式会社ウエスコ関西支社環境計画事業部内)

E-mail : s-watanabe“at”wesco.co.jp TEL : 06-6943-1520

※メール連絡の場合は”at”を“@”に変更してください。

※申し込み期限は 8 月 25 日（金）です。一般にも公開します。当日参加も可能ですが、移動バス、保険等の準備の関係もありますので、できるだけ事前にお申し込みください。

第3回 ミュージアム連携ワークショップ in 岸和田 ～人工干潟の順応的管理を考える～

開催趣旨 博物館や水族館の専門家、干潟を守る現場の技術者とともに、大阪湾の人工干潟を再生するためには何をどうすれば

よいのかを考えるワークショップを開催します。

■日時：2017年9月2日(土) 10:00～18:00

■場所：午前の部：岸和田阪南2区人工干潟(現地ワークショップ)
午後の部：きしわだ自然資料館(室内ワークショップ)

■持ち物：動きやすい服装、飲み物、昼食、帽子等

※水の中に入る方は、各自で胴長やライフジャケットをご準備ください。お子様のライフジャケットはご用意しています。

■参加費： 現地見学への参加費 ￥2,000
きしわだ自然資料館への入場料 ￥200
中学生以下無料(※保護者同伴)
魚介類を食べる懇親会 ￥5,000
(懇親会に参加される方は事前の申し込みをお願いします)

■CPD：4.5(建設コンサルタンツ協会CPD認定プログラム(申請中))



■プログラム

【午前の部】

- ◇ 9:00～9:50 きしわだ自然資料館見学
(希望者のみ・資料館前集合)
——受付：9:40～岸和田市役所駐車場——
- ◇ 10:00～12:00 現地 阪南2区人工干潟(岸和田市岸之浦町)
※普段は立ち入りが禁止されている干潟を見学します
《案内いただく講師》 児島格 きしわだ自然資料館専門員(貝類)
柏尾 翔 きしわだ自然資料館学芸員(海洋生物)
風間美穂 きしわだ自然資料館学芸員(鳥類)

12:00～13:00 昼食(各自)、生物の顕微鏡観察

【午後の部】

- ◇ 13:00～15:00 室内ワークショップ
(きしわだ自然資料館)
- ※ 15:00～18:00 懇親会：岸和田鰯巾着漁協
(干潟から育った魚介類を食べる)

■申し込み方法

下記問い合わせ先に、所属、お名前、連絡先、参加希望(午前のみ・午後のみ・両方参加・懇親会参加)を添えてお申込みください。申し込み期限は2017年8月25日(金)です。一般にも公開します。当日参加も可能ですが、移動バス、保険等の準備の関係もありますのでできるだけ事前にお申し込みください。

ミュージアム連携ワークショップ in 岸和田 事務局

応用生態工学会大阪 代表 渡辺 敏

(株式会社ウエスコ関西支社環境計画事業部内)

e-mail: s-watanabe @ wesco.co.jp

Tel: 06-6943-1520



主催：応用生態工学会 大阪

共催：大阪市立自然史博物館、きしわだ自然資料館、神戸市立須磨海浜水族園、兵庫県立人と自然の博物館

後援：建設コンサルタンツ協会近畿支部

8 理事会・幹事会報告

8.1 第 87 回理事会報告

第 87 回理事会が本年 6 月 29 日（木）に東京都新宿区四谷の TKP 四ツ谷第一において開催された。

なお、これに先立って、5 月 25 日（木）に第 72 回幹事会が学会事務局において開催され、第 87 回理事会に付議する事項について審議が行われた。

第 87 回理事会での主な審議事項は次のとおり。

①2016 年度（平成 28 年度）決算

- ・ 2016 年度（平成 28 年度）の決算について、収支差額約 51 万円の黒字となったとの説明があり、原案どおり承認された。
- ・ 正会員・学生会員の会費収入が予算に対して減額となっていることに関して、大会の研究発表申込み受付時に会費納入状況を確認するようにすれば、会費を確実に徴収できるようになる、学校卒業時に学生会員から正会員への転格を促すようにすれば、正会員の増加が図れるとの意見があった。

②地域研究会「応用生態工学会岡山」の設置

- ・ 地域研究会「応用生態工学会岡山」の設置について、原案どおり承認された。

③第 4 次中期計画の中間評価

- ・ 第 4 次中期計画（2015～2018 年度の 4 ヶ年）の中間評価について、取りまとめの方針・担当・スケジュール、現時点での中間評価（素案）に関して説明があった。
- 引き続き取りまとめ作業を進め、次回の理事会にて中間評価（案）について検討を行い、本年 9 月 24 日の第 21 回総会において会員に公表・説明を行うことを確認した。

9 2017 年度行事の予定

2017 年度（平成 29 年度）行事の経過と今後の予定

4.1	2017 年度（平成 29 年度）開始
4.9	第 3 回応用生態北信越技術研究会 (神通川、富山県民会館)
4.12	3 学会合同大会 (ELR2017 名古屋) 第 2 回実行委員会 (名古屋大学大学院環境学研究科)
4.13	第 1 回次期役員募集・推薦委員会 (麴町：応用生態工学会事務所)
5.1～12	第 1 回国際交流委員会（メール会議），2017 年度海外学会等への派遣者審査
5.25	第 72 回幹事会 (麴町：応用生態工学会事務所)
5.27～31	第 2 回国際交流委員会（メール会議），2017 年度海外学会等への派遣者決定
5.30	ニュースレター76号 発行
6.1～30	次期（第 11 期）役員候補募集
6.10	応用生態工学会長野・河川生態学術研究会共同シンポジウム (信州大学繊維学部)
6.14～23	第 3 回国際交流委員会（メール会議）
6.23	会誌編集委員会編集幹事会 (麴町：応用生態工学会事務所)
6.29	第 87 回理事会 (TKP 四ツ谷第一)
7.6	第 2 回次期役員募集・推薦委員会 (麴町：応用生態工学会事務所)
7.8	3 学会合同大会 (ELR2017 名古屋) 第 3 回実行委員会 (名古屋大学大学院環境学研究科)
7.25～27	第 3 回次期役員募集・推薦委員会（メール会議）
8.1	第 73 回幹事会 (麴町：応用生態工学会事務所)
8.16	ニュースレター77号 発行
8.30	第 88 回理事会 (麴町：弘済会館)
8 月	会誌「応用生態工学」Vol. 20-1 (20 周年記念特集号) 発行
9.2	応用生態工学会大阪 第 3 回ミュージアム連携ワークショップ in 岸和田 (きしわだ自然資料館)
9.22～25	第 21 回大会／ELR2017 名古屋 (名古屋大学東山キャンパス)
9.22	会誌編集委員会 (名古屋大学環境総合館)
9.22	国際交流委員会 (名古屋大学環境総合館)
9.22	普及・連携委員会 (名古屋大学環境総合館)
9.22	第 74 回幹事会 (名古屋大学環境総合館)
9.22	第 89 回理事会 (名古屋大学環境総合館)
9.24	第 21 回総会 (名古屋大学環境総合館)
9.24	第 90 回理事会・第 75 回幹事会（合同会議） (名古屋大学環境総合館)
10.16or23	応用生態工学会名古屋 フィールドシンポジウム in 木曽川 (愛知県一宮市)
10.20～21	応用生態工学会金沢 第 16 回北信越ワークショップ in 金沢
10 月	応用生態工学会富山 応用生態工学テキスト勉強会
11.7	<共催> 応用生態工学会広島・土木学会水工学委員会環境水理部会ジョイントシンポジウム (松江市：松江テルサ)
12 月	ニュースレター78号 発行
12 月	幹事会 (麴町：応用生態工学会事務所)
2 月	ニュースレター79号 発行
2 月	理事会
2 月	会誌「応用生態工学」Vol. 20-2 発行
2 月～3 月	2018 年度海外学会等への派遣員の募集
3.31	2017 年度（平成 29 年度）終了

10 事務局より

10.1 いつもながらの勤務先等の会員情報変更登録のお願い

会員情報の変更登録は、ホームページのトップ画面右上の「入退会・登録変更・購読」バナーから入り、「会員登録情報変更フォーム」から入力して送信してください。

また、下記 URL で「会員登録情報変更フォーム」へ直接接続することもできます。

<https://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

会員情報変更のご連絡は、学会事務局のアドレス E-mail : eces-manager@ecesj.com にメールをいただくことでも可能です。

会誌のお届け、ニュースレター、その他連絡では、かなりの不達が発生しています。よろしくお願いいたします。

10.2 既刊学会誌を希望する会員に頒布します（郵送料は負担してください）

学会事務局では、既刊学会誌の在庫整理を進めています。今後は一定の冊数を確保して、残りは希望者への頒布、廃棄を考えています。希望者多数の場合は、先着順です。

希望される会員は、学会事務局のアドレス E-mail : eces-manager@ecesj.com までお知らせください。申込者には、事務局から郵送料を計算してお知らせします。郵送料をいただいた後、発送します。

10.3 会員数および LEE 購読者数

2017 年 7 月 20 日現在

	会員数	対前年同時期比較	LEE 購読者数	対前年同時期比較
名誉会員	8 名	増減なし	1 名	増減なし
会 員	902 名	減 42 名	81 名	減 4 名
学生会員	126 名	減 4 名	2 名	増 1 名
合 計	1036 名	減 46 名	84 名	減 3 名
賛助会員	37 法人 (54 口)	増 1 法人 (増 1 口)		